

# 神緑会ニュースレター

第6巻 第1号

発行日 2014年5月23日



神戸大学医学部附属地域医療活性化センター外観



研究棟 B 全面改修後（旧基礎北棟）

目次	ページ
平成26年度一般社団法人神緑会 定時（社員）総会プログラム 総会開催のご案内 平成26年度一般社団法人活動方針	3 4 7
卒業生謝恩会 謝恩会での卒業生の整然とした運 営と神緑会からの記念品の贈呈 学生生活の感想	鈴木 宏隆 10 前田 盛 11 鮫島 智大 12
新入生歓迎合宿について 新入生歓迎合宿要項 歓迎のこたば 新入生・救急蘇生（BLS）実習に ついて 新入生入学手続き雑感	苅田 典生 13 平山 克也 14 河野 誠司 15 前田 盛 16 大洞 慶郎 18
白衣授与式 白衣式に参加して 白衣授与式	苅田 典生 19 檜原 咲 21 中山慎太郎 21
メモリアル 菱田 繁先生	伊東 宏 22 西村 亮一 23
京都大学 iPS 細胞研究所（CiRA）便り	渡邊 文隆 24
1枚の卒業記念写真 神田知二郎と杉田雄	寺島 俊雄 27

目次	ページ
藤田英夫氏来訪 「神戸史談」にて「明治初期の神戸病院」の写 真の特定を報告	33
神戸大学医学部附属地域医療活性化センター 開所式	36 センター長 杉村 和朗 医学部長 片岡 徹 38 兵庫県知事 井戸 敏三 39
女性医師問題について 平成17年頃からの活動と変化	千谷 容子 41
人事往来	医療研究科人事係 44
教員の任期制の導入について	片岡 徹 45
第29回日本医学会総会 2015 関西 一般公開展示について	杉村 和朗 46
神戸マラソンに参加して： 還暦親父のマラソンチャレンジ！	前田 均 48
学生運動部紹介 準硬式野球部、空手道部、ウィンドサーフィン部、 女子バスケットボール部、卓球部	50
神戸大学・中国地質大学合同学術登 山隊が2015年にチベットの未踏峰へ	山形 裕士 52
編集後記	52

私たち神鋼ケアライフは、神戸に根ざして3つのホームを運営。  
積み重ねてきた実績を活かして、安心・安全・快適な暮らしをサポートしています。



介護付有料老人ホーム

## ドマーニ神戸

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)



気候が温暖な、  
神戸市垂水区に立地。  
閑静でありながら便利な、  
住むのにちょうどいい環境です。

**0120(78)6665**

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●施設の類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一時金方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上。  
【施設概要】●所在地/神戸市垂水区本多間3丁目1番37号●交通/JR「舞子」駅よりバス15分「舞子高校前」下車、徒歩4分(約320m)市営地下鉄「学園都市」駅からバス8分「舞子高校前」下車、徒歩2分(約130m)●構造規模/鉄骨(一部)鉄筋コンクリート造 地上7階・地下1階の1棟、鉄筋コンクリート造 地上10階の1棟●居室数/一般居室195戸、介護居室58室●土地建物の権利形態/土地・建物とも自社所有



平成20年4月撮影



介護付有料老人ホーム

## エレガノー摩耶

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)



街全体がバリアフリーの  
神戸市灘区「HAT神戸」に立地。  
隣接するクラブハウスで、  
他世代との交流も楽しめます。

**0120(01)4165**

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払い方式/一時金方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上。  
【施設概要】●所在地/神戸市灘区摩耶海岸通1-3-10●交通/JR「灘」駅より徒歩13分(約1km)、阪神「岩屋」駅より徒歩10分(約800m)●構造・規模/鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター-東館5階)●総居室数/一般居室134戸・介護居室96室●土地建物の権利形態/土地・建物とも自社所有



平成23年5月撮影

介護付有料老人ホーム

## エレガノー甲南

(一般型特定施設入居者生活介護/入居時自立・要支援・要介護)



六甲の山並みに抱かれた住みよい町、  
神戸市東灘区に立地。  
自立された方も、介護が必要な方も、  
生活の状態に合わせてきめ細かく対応します。

**0120(65)8208**

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示事項】●類型/介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●居住の権利形態/利用権方式●利用料の支払方法/一時金方式(一般居室)・選択方式(介護居室)●入居時の条件/入居時自立・要支援・要介護●介護保険/兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設●介護居室区分/全室個室●介護にかかわる職員体制/1.5:1以上。  
【施設概要】●所在地/神戸市東灘区本山南町3-3-1●交通/阪急神戸線「岡本」駅より徒歩15分(約1,180m)、JR神戸線「摂津本」駅より徒歩12分(約930m)、阪神本線「青木」駅より徒歩9分(約700m)●構造・規模/鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター地上6階)●総居室数/一般居室105戸・介護居室97室●土地建物の権利形態/土地は普通借地(平成16年契約、所有者は神鋼不動産(株))、建物は自社所有



平成18年4月撮影

■お問い合わせ・資料請求等は、各フリーコールをご利用ください。

【経営・運営主体】(公社)全国有料老人ホーム協会会員・(社)シルバーサービス振興会会員 (社)全国特定施設事業者協議会会員

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号(国際健康開発センター3階)  
TEL.(078)261-6665



【ホームページ】<http://www.s-carelife.co.jp>



## 平成26年度 一般社団法人 神緑会 定時(社員)総会プログラム

平成26年6月21日(土) 於・神戸大学医学部会館(シスメックスホール)

一般社団法人 神緑会定時(社員)総会 (15:00~16:00)

議長による開会宣言

議事録記名人の選出

### 1. 審議事項

- 1) 定款等の一部変更案について
- 2) 平成25年度事業報告について
- 3) 平成25年度決算報告について
- 4) 平成25年度 公益目的支出計画実施報告について
- 5) 平成25年度監事監査報告について
- 6) その他

### 2. 委員会報告

- 1) 学術委員会報告
- 2) 学術誌編集・広報委員会報告
- 3) その他

平成26年度同窓会神緑会定例総会(平成25年度決算報告)

平成26年度田中千賀子学術奨励賞並びに研究助成金授与式

学術講演会 (16:00~17:45)

・田中賞受賞記念講演

『乳癌治療の質の向上に向けたフィールドワーク研究』

兵庫県立加古川医療センター 乳腺外科部長 佐古田 洋子先生(S54年卒)

・学術記念講演

『明治初期の神戸病院』

元京都大学総合人間学部技術専門官 藤田 英夫先生

『阪神淡路大震災の教訓』

元神戸大学医学部附属病院長・産婦人科学教授 望月 真人先生(S32年卒)

懇親会(於・神緑会館多目的ホール) (18:00~20:00)



6月21日(土)は神緑会の総会です

本総会では定款等の一部改正により、会計を一本化し、運営のより一層の適正化を図ります。

~ 欠席の場合は必ず委任状を提出しましょう ~

総会を成立させるため会員の皆様のご協力をお願いします。



一般社団法人神緑会



## 総会開催のご案内（6月21日）

会計の一本化で神緑会活動の透明性をより明確にする  
明治期の神戸病院が大震災を乗り越えて神戸大学大学院医学研究科・医学部の今に続く記念の総会とする

### 平成26年度神緑会総会（プログラム別紙）

#### 1. 定款・規則などの変更の必要性和具体的内容について

定款などの変更を伴う、「一般社団法人神緑会」と「同窓会神緑会」の会計の一本化の問題です。平成19年度の法人法の改正により、5年以内に公益法人か一般法人への移行が迫られました。社会貢献を行う神緑会ではありましたが、一方では主に同窓生を念頭においた助成事業等を行っており、公益法人への移行は無理と判断されました。平成22年度に一般社団法人に移行しました。その結果、名簿発行を収益事業として同窓会会計で処理していた問題を社団法人事業として対応できることになりました。総会の成立のための条件整備（過半数の委任状の確保）や2年毎の役員選挙との関係でこの6月総会でこの懸案を解決することにしました。従いまして、総会成立へのご協力をお願いします。

次に、具体的内容ですが、卒業生全員が社団法人神緑会の社員であれば問題は起きないわけですが、会費の未納や未入会、名簿の正確さなどの観点で、約4割の卒業生が本来あるべき姿に整理出来ておりません。中でも、平成卒業者が半数近くになる一方で、昭和年代卒業者ほどの確に掌握できておりません。そこで、会員規則の欄に「正会員が資格停止の場合に法人が開催する事業への参加（支部活動を含む）は、原則として自由とする」と同時に、「卒業生のうち未入会の者は、前項を準用する」とします。更に、未入会者への対応として「この法人は、神戸大学医学部卒業者にとって唯一の統括団体となるため、未入会者に対する入会の勧誘に努めるものとする」との取り組みを明文化します。

学生は、入学時に入会金を納入し、準会員となり、卒業と同時に入会・正会員となります。2年毎の名簿の発行は、卒業生名簿の発行として卒業生全員を対象とします。

次に重要な問題として、支部活動の明文化があります。一般社団法人への移行に際し、評議員会は定

款になんとか盛り込めました。ただ、全国に散在する各支部は、別会計などの関係から明確化できませんでした。今回、運営規則で第5章を改めて設け、支部の設置、組織、業務等を具体的に明記し、支部活動の活性化に取り組めるようにします。年会費の10%を各支部に還付金とする考えは（検討中）全く新しい考えで理事会と支部との密接な連携により運営強化となります。

#### 2. 総会での講演内容

田中賞受賞講演は、受賞1年後の総会で講演を行う決まりです。もう一つの総会講演者等は、学術講演を基本としてきました。ただ、時には芸能人や著名人をお招きし、見聞を広める活動も行ってきました。本年度の位置づけは、昭和19年の医学専門学校の発足から70周年です。ただ、これまでの記念事業は40周年で記念式典と社団法人格の取得の提案、50周年では、記念式典、神緑会館の建設と50周年記念誌の発行が行われ、60周年では、共同研究館の耐震改修と寄附建物の建設に取り組んだ事が外来棟以外の建物の全面耐震改修に発展しました。10年毎に記念事業を行って参りました。

##### 節目の年として

明治初期の神戸病院が明治2年に建設され、医学校としては明治15年から21年まで存続し、その後廃校となって存続した病院が昭和19年の神戸医学専門学校の母体となった。

阪神・淡路大震災から20周年を迎えるに当たり、その被害状況とそこからの復興・教訓の2点をテーマとさせていただきます。

明治21年の廃校を「仮に廃校になってなかったら、神戸大学がどれほど発展したかは計り知れない」と言われますが、冷静にその経過を分析し、明確化することが重要と思います。京都大学教養部図書館にあった4枚の写真が神戸病院の写真と特定された当事者である藤田英夫氏にご講演願います（経過史料を下記掲載）。

望月先生には、一瞬のうちに大被害をもたらした阪神・淡路大地震での被害の状況とその教訓から復興に至る経過をお話しいたします。神戸でも、震災を経験していないひとが既に40%に達しました。2名の学生と1名の職員が犠牲になりました（神戸

大学全体では、39名）。20周年を迎える来年の1月17日に向けた取り組みが兵庫県・神戸市等で具体化しつつあります。「備える、伝える、活かす」を合い言葉に次なる南海トラフの大地震に立ち向かうことが求められます。

## 講演者紹介

### 田中賞受賞記念学術講演会

## 「乳癌診療の質の向上に向けたフィールドワーク研究」

兵庫県立加古川医療センター乳癌外科 佐古田 洋子

### プロフィール



生年月日 昭和30年3月9日  
 学歴 職歴  
 1979年3月 神戸大学医学部卒業  
 1979年6月 神戸大学医学部付属病院研修医  
 1980年7月 兵庫県立病院がんセンター外科勤務  
 1983年1月 神戸大学医学部付属病院医員  
 1988年2月 医学博士学位授与（医博第967号）  
 1996年6月 兵庫県立加古川病院外科医長  
 2009年11月 兵庫県立加古川医療センター乳癌外科部長

#### 所属学会

日本外科学会、日本臨床外科学会、日本癌治療学会、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会  
 認定医専門医

日本外科学会認定医、指導医

日本乳癌学会認定医、専門医

検診マンモグラフィー読影A評価

#### 受賞歴

2009年 Doctor of The Year（あけぼの会）

2011-2013年 専門医が選ぶ Best Doctors in Japan

乳癌診療の質の向上に欠かせないものとしてチーム医療の構築があげられる。チーム医療の目的は、医療の質の向上、医療安全、専門職の活用、医師の負担軽減、患者サービス向上など多岐にわたり理想通りのチーム医療が構築された場合にはスタッフ、患者ともに大きなメリットがある。

当院においても試行錯誤でチーム医療を構築してきたがその歴史は浅く現在発展途上である。現在までに行ってきたその現状と今後の課題について報告する。

## 学術記念講演会

## 1. 「明治初期の神戸病院」

元・京都大学総合人間学部技術専門官 藤田英夫

## プロフィール



## 学歴 職歴

昭和37年 兵庫県立三木高等学校卒業  
 同 京都大学教養部化学教室文部技官  
 この間 立命館大学法学部と理工学部（各二部）卒業  
 平成8年 京都工芸繊維大学博士（学術）取得  
 平成10年 京都大学総合人間学部技術専門官  
 平成15年 同定年退職

## 著書

大阪舎密局の史的展開 京都大学の源流、思文閣出版、平成7年

## 編著

「化学と青春の軌跡 焦土に息吹いた三校生の化学クラブ」せせらぎ出版、平成11年  
 その他多数

演者は先に『大阪舎密局の史的展開 京都大学の源流』（思文閣出版、1995年）を著している。舎密はセイミと読み、化学、Chemistry のオランダ語の音訳で、明治期までは普通に使われていた。今回は拙著のうち、明治初期の神戸病院にスポットを当てる。神戸大学医学部の源は神戸病院なのです。でも、実証資料が乏しく、不明点ばかりでした。30年前に京大所蔵の写真が神戸病院と解明されたプロセスを説明し、明治初期の神戸病院の実態とその後の道のりを紹介します。京大前史より古いのです。

## 2. 「阪神淡路大震災の教訓」

元神戸大学医学部附属病院長・産婦人科学教授 望月真人

## プロフィール



## 学歴 職歴

元神戸大学医学部附属病院長、元産婦人科学教授、名誉教授

昭和32年 神戸医科大学卒業  
 昭和37年 同大学院修了 医学博士授与  
 昭和38年 米国 NIH、NIAMDD に留学  
 昭和41年 同産婦人科講師  
 昭和52年 神戸大学医学部産婦人科学助教授  
 昭和57年 同教授  
 平成3年 附属病院長（平成3年～7年）  
 平成8年 神戸大学定年退官（名誉教授）  
 平成8年 大阪医科大学客員教授  
 平成11年 西脇市立西脇病院顧問等各種医療機関の顧問として生涯現役を目指して活動中

「神戸は地震の起きない土地で地震保険には誰も入りませんよ」との伝承は、平成7年1月17日の未明に発生した大都市直下型地震によって一瞬のうちに打ち砕かれました。附属病院及び医学部の建物被害は耐えられたが、入院患者のみならず押しかける被害者や家を失った地区周辺の避難民の圧力は大きく、不眠不休の対応に追われた。幸いにも政府及び関係者からの支援も得て適切に正常化への対応を実現できた。救急部の活躍により、全国初の災害救急医学講座が認められたのも今となっては良い思い出である。40%が震災未経験者となったが20周年を迎えるこの時期に「備える」為の経験を紹介したい。



## 平成26年度一般社団法人活動方針（神緑会事業とは別に）

記念事業（医学部70周年、神戸病院145周年、同窓会60周年、社団法人30周年）の実施は、独自分を除き神戸大学とも協議する

## 1. 一般社団法人神緑会の活性化を中心とした方針

社団法人30周年（同窓会60周年）を念頭にこれまで以上の活動とする

## 1) 名簿（2年毎の発行）の充実

平成25年版では全学年クラス代表の協力を得たが、特に平成元年から平成10年卒業までの協力を得た。27年版では、平成11年から25年卒業学年に重点を置く。

2) 総会などの神緑会活動参加要請（講演者を神緑会会員とし、同級生などへの働きかけを行う。招待者：クラス代表などを軸に出席者増員を図る）

## 3) 女性医師支援：神戸大ブラッシュアップセンターとの協力

## 4) ホームカミングデイ

参加者増と対象学年の同窓会開催、卒後40周年（平成49年卒）を中心に、対象学年：昭和24、34年卒等の末尾が4の学年、平成11年、21年卒

## 5) ニコニコ会（卒後2、5年同窓会開催）、ニコニコ通信発行（卒後10年までと全学生）

## 6) 支部（広域）活動

全国を3ブロックとし、3年毎の巡回（記念活動初年としてA）

神戸から西、大阪から東海、関東から北海道 秋から冬にかけて3ブロックとも開催する

## 7) 研究助成、研究医奨学金と海外留学支援（記念事業B）

## 8) 「先輩と語ろう会」の再開（記念事業C）

## 9) 表彰制度

（ホームカミングデイ Young Investigator Award）

## 10) 診療科偏在や医療崩壊等の取り組み

## 2. 神戸大学支援

## 1) 地域医療活性化センター運営支援（大リーガー医招聘、関連病院支援）

## 2) 学術図書整備（深瀬文庫、内藤文庫他記念事業D）

## 3) 学生（準会員）支援 学生委員、編集委員選出 運動部・文化部活動支援（記念事業E） 学習支援（ASMEKの学生サークルなど） 技術習得や訓練器具の購入

図書館神緑会文庫の創設・深瀬文庫や内藤文庫を引き継ぐ（記念事業D）

海外派遣と英語会話教育支援

ワクワク会（地域卒学生支援）

## 3. ドクターバンク

当面は、男女共助社会仕組みの構築や会員が病気の際の支援など兵庫県医師会との連携など

## 4. その他

2年から5年の計画を順次構築し、10年計画につなげる

## 大学との協議による記念事業の神緑会平成26年度方針（2）

1. 明治期神戸病院以降の記録や資料の保存
2. 50周年記念誌以降のまとめ（準備）
3. 附属病院居室の改修、玄関の交通の流れの整備
4. 厚生棟改修

## 明治期の神戸病院関係資料

住野 公昭 名誉教授（神戸大昭和38年卒業）執筆  
40周年記念事業資料から 神緑会第1～3巻（昭和59年～61年）

## 1. 神緑会関係者

山中 陽一（27）、山中 昭夫（32）氏父業三宛て  
祖父玄二氏の封筒写真  
斉藤 修（27）：御尊父の神戸病院医員辞令や明

治42年楠町地図

吉田 鉄也 (32): ヘイデンの辞任時期

## 2. 明治期の神戸病院職員関係者

究理堂 京都市 小石 第二郎 5代目 (明治10年  
神戸病院、後に京都で開業)

6代 秀夫氏 死去 (平成21年3月) 25年に  
元紹氏が小児科継続

〒604-0094

京都市中京区釜座通竹屋町下る亀屋町335番地  
電 075-231-3419

奥様 (産婦人科) は神戸大で研修後自院  
神戸病院写真が明治6年ぐらいの撮影で松越  
の解剖所の完成

江馬家 大垣市 第6代 賤男氏 下山手8丁  
目神戸病院最後の病院長 現所地への移転に  
反対、江馬庄次郎死去 岐阜県歴史資料館: 膨  
大な資料が保存

江馬蘭齋: 美濃蘭学の祖で初代

〒503-0893 大垣市藤江町2-132

江馬 寿美子氏 現当主

電話0584-78-2541

佐野 誉 神戸病院勤務

回想録と佐野病院100年 (佐野 馨 現理事長  
の父)

現理事長・病院長 佐野 寧 (関西医大卒、  
神戸大大学院修了)

菅 達夫氏 神田知二郎 神戸医学校・病院長・  
薬学校長のご遺族 連絡は取れてない

神田氏兄の娘さんを養女とし、孫が母 (命日に  
楠寺お参り)

長沢 亘 神田知二郎東京大学後輩

記念石碑の修築 長沢病院 (県庁近く)

ご遺族は特定できてない (神戸大 野邑講師に  
よれば岡田安弘先生経由で寄贈された)

本人の古稀の写真集が神戸大学附属図書館  
大学文書資料室 (100年記念館内)

森 龍玄 (神戸病院初代統括、のち、大阪造幣  
局に異動)

森 文信氏 下関市立中央病院副院長退職  
後北九州市在住

森 友伸氏 高槻市在住

岡山県の顕彰碑が荒れたまま放置されている

## 3. 写真の特定や地理など歴史的発掘関係者

藤田 英夫氏 京都大学文書館所蔵の4枚の写  
真を神戸病院と特定された。

昭和43年神戸大医学部卒 故松森 正之先生  
と高校の同級生

〒611-0025 京都府宇治市神明石塚54-292

電 0774-23-7063

平成26年2月28日 (金) 神緑会館で意見交換  
・交流

平成26年6月21日 神緑会総会でご講演予定

荒尾 親成氏 1903年生まれ 死亡

元神戸市立美術館長・南蛮美術館長

近盛 晴嘉氏 (元毎日新聞記者) 死亡

## 4. 跡地関係者

陳 雅城園ホテル社長 合唱號経営

頸椎損傷で若くして死亡 (神戸大学整形外科)

ご子息 東 康泰 (あずま やすひろ) 氏ご健  
在、マンション 及び自宅など

〒650-0011 神戸市中央区下山手8-4-17

神戸病院跡地に江馬 内科 (上記 江馬 賤男  
氏、前の道を江馬坂) 昭和初期まで存在

その後に雅城園ホテル (新旧館共に震災で解  
体) 玄関の石の門柱 2本が道路反対の神戸  
セミナー入り口の門柱が明治期の神戸病院の  
玄関に類似 (寺島 教授 指摘)





## 今までもこれからもずっと お客さまの笑顔 神戸の街 海 空とともに それが、私たちの誇りです

ポートライナーで三宮から10分、神戸空港から8分、新幹線新神戸駅から車で20分と抜群の利便性に加え、大小36の宴会場をはじめ13のレストラン・バーを有するシティリゾート 神戸ポートピアホテル。  
記念日、お慶びごとの会食やパーティーなど、  
お客さまのご要望にあわせた素敵な時間をお約束いたします。

### ホテル概要

- 客室745室(エグゼクティブフロア67室を含む)
- 全客室無線LAN(Wi-Fi)サービス ■宴会場36室
- 国際会議場ポートピアホール  
(シアター形式 1,702席、コンサートホール対応、6カ国語同時通訳設備)
- レストラン・バー13店
- 室内・屋外プール、テニスコート、ジム、サウナ、エステティックサロン、チャイルドケアルーム
- ショッピングアーケード ■駐車場450台収容
- ポートピアホテル専用無料シャトルバス  
(JR新神戸駅・三宮駅とホテルを結び、20分に1本運行)

ご予約・お問い合わせは・・・

Tel.078-302-1111

 **ポートピアホテル**

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1  
首都圏Tel.03-3256-5005  
ホームページ <http://www.portopia.co.jp>

HYOGOKEN IRYOU CREDIT UNION (HICU)

 **兵庫県医療信用組合**

兵庫の医療・医薬に関わる皆さまと共に歩む専門金融機関です

## " 特別金利キャンペーン "

キャンペーン期間：平成26年9月末まで

	介護・福祉 事業ローン	事業性ローン	住宅ローン	オートローン
(1) 特別金利	<b>年1.350%</b>		<b>年1.000%</b>	<b>年1.550%</b>
(2) 標準金利	年1.550%		年1.100%	年1.650%
(1) - (2)	<b>▲0.200%</b>		<b>▲0.100%</b>	<b>▲0.100%</b>

◎その他の商品についても取扱いを行っておりますので、詳しくは各営業店の融資担当者までご相談ください。

- ※1 本商品は変動金利型の商品です。
- ※2 金利情勢等により、内容の変更を行う場合がございます。
- ※3 お借入に際しましては原則、社保または国保の振込指定が必要です。
- ※4 審査の結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

＜平成26年4月1日より＞

## ATMご利用手数料 無料化のご案内



- ・本サービスをご利用いただくには、当組合の組合員に加入していただく必要があります。
- ・無料となる手数料は、他行ATMご利用時の**入出金手数料及び時間外手数料**です(振込手数料は除きます)
- ・一旦お支払いいただいた利用手数料は、利用月の翌月20日(休日の場合は前営業日)にお取引口座に返戻させていただきます

(平成26年5月1日 現在)

本店営業部 〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-2-17  
Tel : 078-241-5201

尼崎支店 〒661-0012 尼崎市南塚口町4-4-8  
Tel : 06-6426-6288

西宮支店 〒662-0911 西宮市池田町13-2  
Tel : 0798-36-1010

姫路支店

【平成26年5月9日まで】  
〒670-0937 姫路市元塩町121  
Tel : 079-282-0177

【平成26年5月12日より】  
〒670-0932 姫路市下寺町43  
(姫路商工会議所 新館内)  
Tel : 079-282-0177  
(電話番号は変更ございません)

## 卒業生謝恩会

一般財団法人甲南会 甲南病院 初期研修医 鈴木 宏 隆（平成26年卒）



3月25日、今までお世話になった先生方への感謝の気持ちを込めて、ささやかではありましたが、謝恩会が行われました。お忙しい中、ご出席いただきました先生方、大変ありがとうございました。少しでも楽しんで頂けたのなら幸いです。

謝恩会委員を務めることになり、今までそのような経験がなかった私は大変不安でした。しかし、たくさんの人に支えていただきました。特に当日は、

同級生全員が協力しあい、謝恩会を無事に終えることができました。卒業して改めて思うことは、大学時代の一番の宝はやはり友達であったということです。しかし、これから医師という大変な道のりを歩いていく中で、そういった大切なことを忘れてしまうかもしれません。そのため、神緑会の方々が支援して下さいます同窓会を大変嬉しく思っております。ありがとうございます。

そして、同級生との別れを悲しむ間もほぼなくして、仕事が始まりました。まだ1ヶ月ほどしか経っていませんが、すでに学生とは違う毎日が続き、社



教員および学生



教員および学生



会人の大変さを痛感しております。しかし、これからの厳しい道のりも、神戸大学で学んだ多くのことを活かして乗り越えて行けると考えております。先生方には、これからもどうか暖かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

私は一般財団法人甲南会 甲南病院で研修を行っております。神戸大学の名に恥じないよう努めていきたいと思っております。そしていつの日か、神戸大学に少しでも恩返しができるばと思っております。



教員および学生

## 謝恩会での卒業生の整然とした運営と神緑会からの記念品の贈呈

一般社団法人神緑会会長 前田 盛（昭和46年卒）

会場はいつものポートピアホテル、レインボールームでした。この会場ほど、謝恩会会場にふさわしい作りは無いのではないのでしょうか？神戸大学医学部医学科の卒業生諸君の幸運をお祝いし、何年かの後には結婚式やその他の会合での会場としてお使い下さい。

しかも、あわただしい卒業と医師国家試験受験、

初期臨床実習のスタートで多忙な毎日と思いますが、謝恩会の運営委員長、司会と卒業後の役員4名が選出されており、神緑会がお願いする内容は総て整然と整っていました。特に驚いたのが、最後の記念写真撮影です。これまでも集合写真が、神緑会ニュースレター「卒業と入学」特集の1ページを飾ってきましたが、比較が可能ならば今回の撮影は



学生全員



好印象を持たれたでしょう。最前列の恩師の列は移動せず、後列の学生が順に入れ替わり4回の整然とした撮影で終了しました。どれくらい大きく拡大すると各学生の顔を識別できるのか？医学部卒業といった人生の門出を本格的に祝う写真にふさわしい演出に神戸大学卒業生の未来を感じました。卒業アルバムは7月の完成と伺っています。皆様

の幸多かれと祈ります。神緑会からは、これまでの神戸大学の発展の主体が神緑会活動にある事を強調する強がりや声を高く強調・アピールするのがこれまでの習わしでしたが、今後はサポート体制の強化こそが先輩のすることと認識した記念すべき謝恩会となりました。ご卒業お目出度うございました。

## 神戸大学 学生生活の感想

神戸大学 研修医1年 鮫 島 智 大（平成26年卒）

神戸大学での六年のカリキュラムを終え、この度無事に卒業を迎えることが出来ました。それは決して自分1人の力ではなく、神戸大学の先生方、病院の職員の方、友人、先輩、家族といった様々な人に支えられた結果だと思っています。この六年間、本当にありがとうございました。

今、学生生活を振り返り、様々な出来事があったなぁと改めて感じております。感想といっても一言にまとめることは難しく、学年別に述べていきたいと思います。

1年次：六甲台キャンパスへ主に通う唯一の学年であるため、毎日山登りをし、他学部の人が多い中で授業を受け、授業が終わったら部活に行くという最も「大学生らしい」生活をしていた学年でした。これから6年間をともに過ごすことになる部活の仲間、同級生にも初めて会った時期であり、何もかもが新鮮で、毎日が期待と不安であふれていた記憶があります。

2年次：約半年が解剖実習に費やされるため、解剖のイメージが強い学年になっています。当時は人体の構造が分からないまま、ただ黙々と作業をしていた部分もあり、今解剖するとまた違って見えたりするかもしれないと感じています。半年も解剖をする機会は今無いはと思いますが、また機会があればやってみたくとも思っています。

3年次：部活で幹部学年となる時期、そしてレギュラーの座が見えてくる時期であり、ほぼ部活関係の記憶しかありません。私はサッカー部に所属していましたが、部活をして、部活をしていない時間は先輩と麻雀をして、と夢中で過ごしていたら

つの間にか過ぎ去っていた学年という印象です。

4年次：チュートリアル形式の授業が始まり、症例で分からないことを教科書や論文検索で調べるといったことを始めた学年です。参考文献を書くことの重要性、論文の調べ方といった基本的なことを学べて、今に繋がるという意味でとても良かったと感じています。

5年次：BSLが始まり、実際に患者さんと話したり、働いている先生方と話したりして、自分の将来の姿を想像し始めた学年です。各科でレポート提出が課せられ、作成に時間をかけすぎずにかつ必要なところは漏らさないといった技能を身につけていきました。

6年次：国試勉強をしようとしつつも、学生のうちにできることをしようと思い、クラシック愛好会に入って演奏したり、海外旅行したりと後悔のないように楽しみました。

そして今研修医として日々の勤務に励んでおります。忙しい毎日を送っておりますが、その生活の中でも今の私の目標は「同窓会で友人に会ったときにも胸を張れるような医師になる」ことです。

また会いたい友人もいます。負けたくない友人もいます。今はかなり離れ離れになっていますが、同窓会でまた会うことが出来るでしょう。その日を待ちながら、これからも日々頑張っていきたいと思っております。

同窓会の開催は神緑会の方々のお力添えなくしては難しく、神緑会の方々には大変感謝しております。これからも宜しくお願い致します。

## 平成26年度神戸大学医学部医学科新入生歓迎合宿について

教学委員長 苅田典生（昭和55年卒）

今年も4月1日、2日は淡路島の景勝地、慶野松原で神戸大学医学部医学科の新入生を集めて新歓合宿が行われました。今年も中村医学科長と平山教務学生係長に苅田を含めた3人が引率しました。4年生約60人が加わってバス4台を連ねて、春の波も穏やかな明石海峡を越えて淡路島に向かいました。バスの中では始めは緊張していた新入生達も、4年生の軽妙な司会のおかげで、自己紹介や先輩への質問コーナーなど、お互いに打ち解けて、宿舎である国民宿舎慶野松原荘に到着したときは、すっかり和やかな雰囲気になっていました。

到着後は、まず、中村医学科長からご挨拶をいただいた後、苅田が教学委員長として、カリキュラムの説明と修学上の注意についての訓示を行いました。新しくはじまる医学教育評価認証制度にむけてのカリキュラム改革により、これまでよりも厳しい教育にかわる予定であることを伝えました。



その後、引き続き「神戸大学医学部医学科の過去、現在、未来」という講演を苅田が行いました。

事前に前田盛神緑会会長よりいただいておりました「神戸病院の発見」という貴重な資料を記録したスライドから一部を引用させていただきました。神戸大学医学部は50年あまりの歴史しかありませんが、その原点が明治2年に開院した神戸病院にあ



ること、当時の病院の写真に写っている道標が今も花隈の本願寺神戸別院（モダン寺）の近くに立っており、きわめて正確に当時の場所が特定できることなどの話から始まり、その後昭和19年の県立医学専門学校設立から県立医科大学を経て、昭和39年に国立神戸大学医学部に移管された経緯を説明しました。

次いで、現在日本の各医科大学で喧々諤々の議論になっている医学教育改革について、神戸大学としての取り組みを説明しました。新しいカリキュラムは、outcome based education の考えを基本として、国民の医療と健康に資する有為な医師を卒業させるためのカリキュラムであらねばならないこと、そのために、教育内容を前倒しし、臨床実習を充実させること、そして当にこの新入生達から、カリキュラムの改変が行われていくことなど、教学委員長としての殊更厳しい話の内容に、新入生達はせっかくのバスの中でのハイキング気分も吹き飛んで、真剣な表情で聞き入っていました。

彼ら全員が、この厳しいカリキュラムの中で、真摯に勉学に励み、CBT、OSCE という関門を乗り越えて、病棟実習で人間としての研鑽を積みながら、6年後に頼もしく巣立ってほしいものです。そして、卒業後はニコニコ会など同窓会を通じて横の親睦を深めるとともに、神緑会会員の一人として縦の繋がりである先輩の助けを借りながら、後進の育



成にも積極的に関与してほしいと思っています。一人の神戸大学医学部生は、神戸病院に始まる百数十年の誇りを受け継ぎ、その伝統を後輩達に伝えていく責務があることを伝えました。

最後に、彼らに「邂逅」という言葉を贈りました。これまで様々な人生を経てきた若者同士が出会い、我々教員と出会い、医学という学問と出会い、様々な病気と出会い、病に冒された患者と出会い、そし

て卒業して医師という職業と出会います。これから続くかけがえのない出会いの場として、神戸大学を選び、神戸大学から選ばれた117名を心から祝福したいと思います。

講演会終了後は和やかな雰囲気にもどって、4年生たちが各クラブの紹介を行い、新入生をホテルの庭や海岸に誘い出して、バレーボールやサッカーをしていました。

翌日は、中村医学科長の特別講演を拝聴した後、神戸に帰りましたが、この後、今年の新しい試みとして新入生全員が体育館でBLSの講習会を受けました。この講習会は救急部の西山教授のご指導のもと、OSCEに合格したばかりの新5年生と心肺蘇生に関心のあるLINKというサークルの学生達が新1年生に直接指導を行いました。その詳細は、このすばらしい企画を立案していただいた医学教育学分野の河野准教授に引き継ぎたいと思います。

## 平成26年度神戸大学医学部医学科新入生歓迎合宿要項

1. 目的：神戸大学医学部入学に際し、単位修得のガイダンスや、教職員・先輩学生を交え、今後の医療・研修を担うべき医師像について話し合い、医学科学生としての自覚を高める。
2. 日程：平成26年4月1日（火）～2日（水）
3. 場所：国民宿舎 慶野松原荘 兵庫県三原郡西淡町 Tel 0799・36・3391
4. 参加者：新入生113名 教職員3名程度 4回生約50名  
教職員出席者：4/1・2両日 中村医学科長・平山  
4/1日帰り 苅田教務学生委員長
5. 経路：往復とも貸しきりバスを利用
6. 日程表

### 第1日目 4月1日（火）

10:00	医学部 第2講堂に集合、手続き（平山・殿元）	
11:00～11:40	昼食（第2講堂にて、各自持参のこと）	
11:40～	4回生による説明	
12:10	バス乗車、出発	
13:30	慶野松原荘到着	
14:00	新入生ガイダンス	司会進行：学務課
14:00	中村医学科長挨拶	
14:15	カリキュラムの説明等修学上の注意	苅田教務学生委員長
14:45	記念講演	苅田教務学生委員長
15:30	質疑等	
16:00	学務課からの連絡事項	学務課
		司会進行：新歓委員



16:30	クラブ紹介
18:30	立食パーティー
20:00	入浴・自由時間
23:00	就寝

## 第2日目 4月2日(水)

7:30	起床
8:00	朝食
9:15	新歓委員レクリエーション
10:30	記念講演 中村医学科長

司会進行：学務課

11:15	質疑等
11:30	軽食
12:30	慶野松原荘出発
14:00	医学部 図書館前到着
14:30	ガイダンス及び救急実習(体育館で2時間程度)
16:30頃	

## 歓迎のことば

医学科教務学生係長 平山克也

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

そろそろ神戸大学での新しい生活に慣れ始めた頃でしょうか。

今回、医学科の伝統でもある淡路島での新歓合宿に初めて参加させていただき、私が一番感じたのは新歓委員をはじめとする先輩学生達の新入生を思うアツさです。

バスで淡路島に向かう間のマイクパフォーマンスやサービス精神には大変感心しましたし、新入生のみなさんを新しい仲間として明るく迎える姿勢にみなさんも「こんなに明るい学生生活ができるのか、いい所に入学できたなあ。」と実感したのではないのでしょうか。

医学科が、他の学部と違うのは多少の差はあれど

も、皆が同じ目標、道を目指している点かと思えます。同じ教室で同じ授業を受け、国家試験という大きな目標に向かって努力する中で自然と共通の話題ができ、親くなる速度も濃度もおそらく他の学部の比にはならないのではないのでしょうか。

また、クラブ活動も非常に盛んなので、先輩・後輩との情報交換や交流も大変充実したものになるかと思えます。

みなさんの学生生活が有意義でかけがえのない時間になることを願いつつ、最も近くにいる事務スタッフとして医学科教務学生係のメンバー一同、みなさんの学生生活を精一杯サポートさせていただきますのでこれからどうぞよろしく願いいたします。

## 新入生・救急蘇生（BLS）実習について

総合臨床教育センター 河野 誠 司（昭和61年卒）

今年も桜満開の4月1日に神戸大学医学部医学科に117名の新入生を迎えました。新入生は、4月1日、2日に行われた淡路島での新入生歓迎一泊合宿から医学部に帰ってきて、バスを降りたその足で午後2時に医学部体育館に集合しました。そこには、5年生先輩28人と救急蘇生を勉強している学生サークル（LINKS）の学生18名（他大学学生含む）が待ち構えていました。今年度から新しく導入した新入生救急蘇生（BLS）実習の始まりです。先輩たちは、インストラクターとして参加するため、2日の午前10時から救急部西山隆教授のご指導で実習指導の予行演習を済ませていました。体育館には30体の蘇生人形が神戸市消防局のご協力で配置してありました。それぞれの人形1体あたり、新入生3-4人に上級生インストラクター1-2人が指導に当たるグループ分けです。最初に西山教授より実習のやり方について説明があって、学生インストラクター3人がデモンストレーションをしました。インストラクターの1人が、路上に倒れている人を発見、呼びかけに反応がないので、近くの人に119番通報とAEDの手配を依頼し、気道確保しつつ呼吸していないことを確認後、自ら胸骨圧迫と人工呼吸を施行し、AEDが到着したら装着、心電図解析ののち電気ショック施行、再び心肺蘇生、救急隊の到着という流れです。デモのあとグループに分かれて新入生たちは学生インストラクターの指導の下、見よう見まねで心肺蘇生実習に取り組みました。学生インストラクターは新入生1人の試技ごとにフィードバックをかけ熱心に指導していました。それぞれの試技が一巡した頃に集合し、反省点を話し合ったあと、もう一度今度は神戸市救急隊の方がプロの心肺蘇生を実演しました。昨夜来の新歓合宿の興奮と寝不足による疲れで集中力が途切れがちであった新入生も、このプロの切れの良い技をみて元気をとりもどし、午後4時まで2時間にわたってみっちり実習を行いました。

この実習の狙いは二つあります。第一は、もちろん救急蘇生を学んでもらうこと、第二は上級生が指

導、下級生が指導される教育機会を作ることです。近年、臨床手技を学ぶ手段としてシミュレーション教育が卒前・卒後の医学教育に重要視されています。実際の臨床現場で医療行為を行う前に臨床手技のシミュレーションを行うことによって、医療の質を向上させ、また患者安全につなげることが狙いです。BLS実習はその最も基本的なものの一つですが、昨年までの学年は4年次後半に臨床実習（BSL）が始まる前に臨床基本実習としてはじめてBLS実習を行うというカリキュラムでした。最近では、学校など一般社会でも救急蘇生術の教育が行われるようになっており、医学生になったからには最低限救急蘇生はできるものと社会からは見なされるので、是非早期にBLSを身につけさせたいとこの実習は企画されました。ちなみにこの実習は「入学式」より前です。一方120名弱の新入生にBLS実習を行うには、たくさんのインストラクター



西山教授によるオリエンテーション



5年生による実演



5年生による実演



5年生による実技指導

が必要です。指導のオリエンテーションは教員（今回は西山教授）がしますが、4年次 OSCE にて救急蘇生実技試験に合格した新5年生をインストラクターとして動員すれば、教員の動員は最小限で、しかも5年生の再教育の機会ともなり一石二鳥です。また上級生が下級生を教える枠組みは、上級生にとっても下級生にとってもよい学習の刺激になります。

この4月には、神戸大学医学部に地上3階地下1階の地域医療活性化センターが開設され、その地下1階に臨床基本手技トレーニングセンターをはじめ

めとして、各種シミュレーション教育の場が整備されています。神戸大学医学部附属病院のみならず地域病院の研修医の皆さんにも、各種シミュレーターを使って臨床実習を補完する実習の場として地域医療活性化センターを活用していただけるよう機能や企画を充実してゆく予定です。ご期待ください。

最後にこの新しい取り組みを快く引き受けて素晴らしい実習にさせていただきました救急部の西山教授に深謝申し上げます。



新入生による実技



救急隊員による実演



## 新入生入学手続き雑感

神緑会会長 前田 盛（昭和46年卒）・副会長 大洞 慶郎（昭和46年卒）

厳しい受験勉強に耐えて晴れの合格を勝ち取った若者の笑顔は気持ちの良いものでした。AO入試と推薦入試の合格者の入学手続きは2月18日に医学科で実施されました。前期日程合格者は3月14日に六甲ホールで全学部共通の方法で実施されました。両日とも、神緑会では、役員（会計担当の副会長大洞と会長前田）と事務局員が新入生への対応に当たりました。入学手続き終了後、後援会（父兄会）、神緑会と学生自治会が順に対応しました。事前に、合格通知と入学手続きに必要な書類などと同時に神緑会からの入会準備金の趣旨などを記載した書類と振込用紙を学務課からお送りしました。従って、神緑会からは、神戸大学の歴史などの説明文と神緑会の事業、特に学生支援内容などを説明しました。

山中伸弥京都大学iPS細胞研究所所長・教授が神戸大学卒業である事はほぼ全員が知っていたが、明治期の神戸病院や医学校についてはほとんど知られていなかった。甲陽学院からの合格者が13名と多かった他は、かなり分散し常連校以外からの合格者も多かった。合格のお祝いと十分な伝統と格式を有する神戸大学で自信を持って学業やクラブ活動に励むように激励しました。後援会と学生自治会は、その場で現金で会費を集めており、神緑会のみが振り込み（より任意性が高い）でした。なお、凌霜会：経済・経営・法律の三学部とKTC工学振興会（工学部）と神緑会は社団法人格を有する。その点からは、年会費の徴収が可能だが、他の同窓会はこの入学手続きでの徴収が同窓会の活動を大きく左右する。年会費の徴収のための苦労はあるが、法人格の取得に努力された先輩諸兄の苦労に改めて敬意を表します。

この時の新鮮な気持ち（初心忘るべからず）が長く継続することの重要性は申すまでもありません。入学手続き時の初めての短い交流で神緑会活動の意義を理解してもらう事は困難でしょう。このシステムの浅はかな点は、「合格してうれしいから協

力が得られやすい」との一時期の反応の期待です。本来的には、神緑会活動の意義づけが十分理解される事です。地域医療連携が医療の基本であり、地域完結型の医療の重要性が考えられている。努力しなくても、うまく運用されている地域や病院、診療所があり得るのでしょうか？もし、そうとしても、十分な連携で一層の充実が得られるのは間違いのない。他大学卒者との連携も重要だが、同窓間での連携を基本に据えた上での取り組みで先でしょう。神緑会をもっと広く活用してもらいたい事を節に訴えます。

同窓生が有り難いのが、「年齢が高くなると懐かしい」、「皆の社会的地位が高くなってお互いの利用しがいがある」とは違って、同窓生は苦楽を6年間共に過ごし、ほとんど医師として働くからこそ、神緑会としての活動に興味湧く。一時期の逡巡、「参加するかは、任意でしょう」と思い、その後の気まずさ故に気持ちが遠のくのが、実態でないでしょうか。学年によって未入会者が多い5学年のクラス代表と意見交換しました。「未入会者の多い特別な理由はありますか？」の質問には、「特に理由はないと思います」の返事でした。卒業後2年目、5年目の同窓会の開催とニコニコ通信の発行と卒業後15年目までの卒業生への送付などを通じて、神緑会活動の重要性をアピールしたい。

## 平成26年度神戸大学白衣授与式

教務学生委員長 荻田典生（昭和55年卒）

昨年より始まった白衣授与式ですが、今年も平成26年4月4日午後5時から、BSLのガイダンスに引き続きシスメックスホールで開催されました。今年は昨年よりも多くの教授の方々にご出席いただき、徐々に学内でもこの式典の認知度が高まりつつあります。

白衣プレゼンターとして、片岡徹医学部長、中村俊一医学科長、藤澤正人病院長、甲村英二副病院長、平田健一副病院長、西村善博副病院長、飯島一誠博士課程教学委員長、平井みどり薬剤部長、並びに前田盛神緑会長の9名の先生方に御登壇いただきました。壇上には昨年と同様、のじぎく会よりご寄付いただきましたみごとなお花が飾られています。



はじめに片岡徹医学部長より、白衣式の由来についてのお話がありました。アメリカで始まったこの式典は、今では日本全国の大学医学部、医科大学に広がり、医師としてのプロフェッショナリズムの教育には不可欠のイベントとして定着しつつあり



ます。CBTとOSCEに合格した学生が、病棟実習開始にあたっての自覚を促すだけではなく、学外に対してもこれまでの教育の質保証を公示する意味もあり、全国医学部長会議においても、これら学生にスチューデントドクターなる名称を賦与することになったことなどについてのお話がありました。

荘厳なパッヘルベルのカノンが流れる中、新5年生102名のうち、欠席者をのぞく98名が、9人毎に一人ずつ名前を読み上げられると、白衣を持って登壇します。この白衣は神緑会より贈与されたものであり、左肩に神戸大学のロゴが刺繍されています。壇上に9名の学生が上がりますとそれぞれのプレゼンターの先生方の前に立ち、白衣を手渡します。そのあと正面に向き直って、後ろからプレゼンターの先生方に直接白衣を着せていただきました。

ボタンは自分で留めて、顔を上げたときに、すべての学生が、嬉しそうに、すこし気恥ずかしそうな





表情で整列、その後、再び振り返って各先生方から「頑張れよ」「しっかり勉強しなさい」など、心温まるかけ声をかけられながら固い握手をしていただきました。それぞれに感謝の言葉を述べた後、誇らしげに降壇してきます。

全員が白衣を着衣させていただいき、着席の後、藤澤病院長から臨床実習に臨む心構えについての訓示がありました。



前田盛神緑会長から、神緑会の様々な活動のご案内を含めたお祝いのお言葉をいただきました。さらに今年は松浦正子看護部長からもチーム医療を含めた臨床実習への期待のお言葉をいただくことができました。



そのあと、全員で起立し、宣誓を唱和しました。「我々医学生一同は、患者の辛さを思いやれる共感の心を持ち、真剣に命と向き合い、謙虚な姿勢で学び成長していくとともに、組織の一員という自覚を持って社会に貢献できる医師を目指して臨床実習に挑むことを誓います。」

神緑会先輩の方々の熱い期待のこもった白衣に袖を通す事で、神戸大学医学部の歴史の中で培われてきた伝統を体感し、やがて自分たちも卒業して医師としての社会貢献を果たす時がきたならば、今度はその知識と経験を後輩にしっかりと伝える覚悟を自覚してくれたことと思います。

神緑会の皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。





## 白衣式に参加して

平成26年4月4日、新5回生の一人として、シスメックスホールにて行われた白衣式に参加しました。白衣式というひとつの区切りを迎えられたことを大変嬉しく思います。

白衣式では、教授の方々から祝福と激励のメッセージをいただき、ついにここまで来たという喜びと、これから始まる臨床実習への期待と不安の入り混じった気持ちを感じました。そして白衣着衣式では、神戸大学の9人の先生方に一人一人白衣を着せていただきました。今まで基礎医学や臨床医学の講義でお世話になり、そしてこれからも指導していただくことになる先生方に白衣を着せていただ

神戸大学医学部医学科 5年 檜原 咲

き、激励の言葉をいただいたことで、自分が医療チームの一員になるという自覚が強まったと思います。最後に学生全員で誓いの言葉を述べ、この言葉を忘れずに臨床実習に挑もうと強く思いました。

その3日後から臨床実習が始まりました。神緑会から寄付していただいた白衣には、おそろいの神戸大学のマークが刺繍されていて、同級生らとの一体感を感じられます。4年生までの環境と全く違い、戸惑うことも多いですが、臨床の場で学習できることを有り難く感じながら、日々努力していきたいです。

## 白衣授与式

1093564M 中山 慎太郎

4月4日に私達の学年の白衣授与式が行われた。医学部に入ってちょうど5年がたち、私は白衣授与式に出席している中で、この式を境に自分の周りの環境が一気に変わるのであろうことを感じ取った。BSLは座学だけでなく実臨床の中で症例や患者さんから学ばなければならない。BSLの目的はなにも国家試験に受かるためだけでなく、医師としてのスキルアップという大きな目的もあるのではないだろうか。私達の医師人生の中で一生続けなければならない、この大きな目的を達成するための努力は、医師にもなっていない5回生の時から始めなければならないのだと私は感じた。そして医師としてのスキルアップとはどういうことなのか、簡単に

思えて実はかなり難しいことである。医学生の私にとってこの問題は現時点では答えは出せないが、BSLで出会う様々な医師や患者さん、その他コメディカルの方を見ながら決めることにした。式に参加し、医学部長や病院長といった先生方のお話を聞いて、私はこのような事を考えていた。いずれにしろ自分の学生生活の中で大きな節目を迎えた事に間違いはない。私はこれからの実習で得る全てのことを、医師としての人生に役立てるようにしたい。そういう決心をする機会として白衣授与式は私にとっては大変ありがたい行事であった。関係者の皆様ありがとうございました。

## メモリアル

菱田 繁 兵庫医大名誉教授  
社団法人神緑会前理事長 を偲ぶ

元神戸大学医学部第一病理教授 伊 東 宏 (昭和38年卒)



平成26年3月15日、兵庫医大名誉教授 菱田 繁先生が逝去された。先生は平成11年、胆管癌のため、十二指腸、膵、胆、肝の一部切除の手術を受けられた。平成22年、再発のため肝右葉切除、平成24年にはリンパ節転移のため化学療法が開始された。先生は押し寄せる病魔に逆らうかのように、学会への参加、行政解剖の施行、六三会の幹事……等々、笑顔で見事にやり遂げられた。菱田先生の生前の数々の遺徳を偲びつつここに拙一文を捧げる。

菱田先生に初めて出会ったのは昭和32年4月、姫路工大医進過程で以降57年間の付き合いとなる。菱田先生は演劇に興味を持たれ、池村、清水、東諸氏らで、姫路市公会堂において福田恆存の戯曲を演じた。体育祭では医進過程の男子学生が菱田先生を先頭にバレリーナの白いコスチュームで、チャイコフスキーの“白鳥の湖”を踊った。姫路では貧しいが楽しい学生生活を送り、明るくおおらかで正論を声高に論ずる菱田先生はすぐにクラスの人気者のリーダーになった。

神戸医科大学に進学してからの菱田先生の活躍は益々盛んで、学生自治会の運動部長、バスケットボール部員、神戸女学院大学女子学生との茶道交歓会……等々忙しく、その合間に奥村（渡辺）葉子、故・堀越 一彦諸氏らと大倉祭で演劇を熱演した。インターン修了後、直ちに法医学教室（故・溝井泰彦教授）に大学院生として入局し、クロマトグラフィを用いてのアルコールの研究に邁進した。研究室が隣であったこともあって、毎日のように菱田先生を訪れ色々話し合った。法医学教室では臓器からの成分抽出のため日夜機器が作動しており、抽出のためのエチルアルコールやクロロフォルムの香りが漂っていたことを今も懐かしく覚えている。故・溝井教授が硬式テニスをお好きであった縁

で、西代の夜間テニスコートや神戸女子薬大（故・金子学長）へよくご一緒させて頂いた。

菱田先生は大学院卒業後、昭和43年4月法医学助手、同9月講師に昇任され、昭和48年9月には新設の兵庫医大法医学教室（故・松倉 豊治教授）の助教に就任された。松倉教授の学長就任と共に昭和52年7月兵庫医大法医学教室の教授に就任された。兵庫医大法医学教室へも何回も訪問させて頂いたが、いつも剖検や動物実験などに自ら忙しく立ち働いておられ、大内 晴美さんや南 貴子さんに優しく対応して頂いた。菱田先生は近交系ラットを用いて高アルコール嗜好性ラット（HA）と低アルコール嗜好性ラット（LA）の日本で唯一の遺伝モデルを開発され、アルコール研究を幅広い遺伝子レベルまで高めた功労者である。菱田先生の法医学学会、アルコール・薬物医学会での活躍はここでは割愛するが、歯に衣を着せない、正義感溢れる理論を兵庫医大教授会でも展開されたと聞く。誰もが躊躇する権威者や大御所の前で、たった一人でも堂々と正論を述べ、旧態依然とした学会や教授会の本質を一喝した。このような勇氣ある発言は、大所高所からの冷静な判断と学問に対する深い愛情と勇氣ある使命感があつてのことである。菱田先生の逝去は学会や大学にとっての大きな損失であるばかりか日本国の宝の損失でもある。

平成26年6月8日、神戸ポートピアホテルにおいて六三会は、菱田幹事の下で59名の参加で盛大に行われた。機関誌“轍”第9号も立派に発刊され、出席者全員が楽しく嬉しかった。ただ皆が大変気になったことは、幹事の菱田先生が大変痩せており顔色が悪いことであった。しかし、同級生全員が菱田先生の病状をよく理解していた。それは菱田先生ご本人がご自身の病気の進行状態をザックバラに口にされていたからである。誰もが口にはできなかったが、菱田先生の姿を痛々しく眺め、しかし、菱田先生の誠意に精一杯応えようと思ひ切り明

るく振る舞った。「菱田先生がいなければこの六三  
会50周年記念会の成功はなかった」との強い感謝  
の気持ちをそれぞれの胸に抱いて……。

葬儀は平成26年3月17日、神東会館でしめやかに  
執り行われた。1階、2階、控え室に溢れる参列  
者、供花の多さ、焼香の列は延々と続いた。多数の  
弔電の中には阪神の和田監督、巨人の原監督、

DeNAの中畑監督、鳥谷選手の名前もあった。無  
数の胡蝶蘭、白菊に囲まれて菱田先生のデスマスク  
は微笑んでいるかのように見えた。阪神の応援歌“六  
甲おろし”の曲に送られ、死ぬ迄稚気を持ち続け、  
情にもろく心遣い細やかであった菱田先生の葬送  
車は見えなくなった。

## メモリアル

### 菱田繁君の御霊に捧ぐ

前兵庫県医師会長 西村 亮 一（昭和38年卒）

菱田 繁君のご逝去に対し、心から哀悼の意を捧  
げます。繁君とは医大時代からの同級生で夢多い  
青春時代から共に過ごさせていただきました。

卒業してからも共に基礎学舎での研究の道に進  
み、勉強に疲れるとどちらからともなく声をかけ、  
基礎の中庭でテニスに興じ、バスケットボールで遊  
んだことが昨日のように思い出されます。守衛の  
おじさんの松茸山へ、松茸狩りに行き、たらふく松  
茸を食べさせていただいたこともありました。

私の立場から菱田君を語る時、やはり警法医会の  
組織化にご尽力いただいたことを語らないわけに  
はいきません。

菱田君は医師になられてからは法医学者として、  
神戸大学から兵庫医大へと活躍されました。特に  
我々兵庫県医師会会員にとって死体の検案・検死に関  
してどれだけお世話になったか知れません。

平成12年より県医師会の中に「警察医委員会」を  
設けました。こういう委員会を医師会の中に設け  
ること自体が全国的にも例をみないことでした。  
この委員長に頭初より菱田君に担当してもらいま  
した。

委員会では「警察医を如何に組織化するか」「死  
亡診断書の書き方」「死体検案医師の確保」の検討  
をお願いし、最終的には医師会内に「死体検案認定  
医制度」を設置することでした。

そのためには委員会だけの活動でなく、広く医師  
会員、警察関係者、消防救急関係者、自衛隊、法医  
学の研究者など幅広い人々との交流が必要でした。  
菱田君の提案で発足したこの交流会は回を重ねる  
毎に盛況をきわめ、毎回多数の関係者の参加で賑わ  
いました。大好評でした。

会員からの事例報告、警察現場からの事例報告そ  
して研究機関からの基調発表と続きます。菱田君  
自らが基調講演をしてくれる時もありますし、神戸  
大学の上野易弘教授、県の長崎靖医務係長、木下博  
之先生方にも助けていただきました。

そして、いよいよ「兵庫県医師会死体検案認定医  
制度」にたどりつき、第1回の認定には、実に兵庫  
県下の医師66名に認定証を発行いたしました。平  
成19年のことでした。もうこれで県下どこでも  
死体の検案・検死が可能となる画期的なできごとで  
した。これも菱田君が文字通り生命を捧げた大事  
業であったと確信しています。

菱田君、

君の打ち立てられたこの偉業はきっと後輩や関  
係者が引き継ぎ盛り立ててくれることと思います。  
色んなことにお世話になりました。何とお礼を申  
し上げて良いかわかりません。ありがとう。本当  
にありがとう。

どうか安らかにやすみ下さい。合掌。



## 京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 便り

国際広報室 渡 邊 文 隆

平素より神緑会の皆様からは弊研究所への多大なご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。今回は、ここ数カ月の研究の進捗から、いくつかの成果をご紹介します。

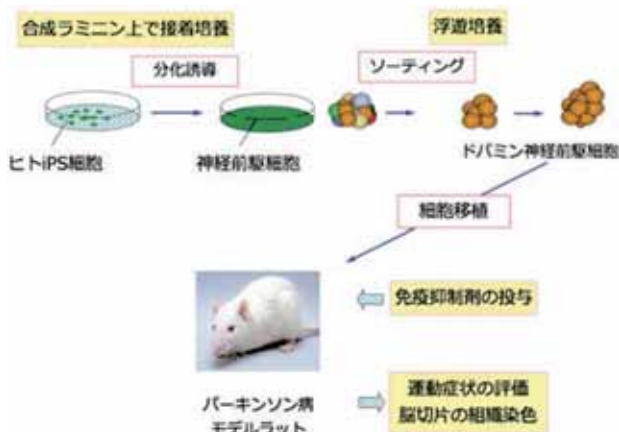
(以下、特に所属の記載のない研究者は CiRA の所属)

### 1. iPS 細胞を使ったパーキンソン病の治療方法を確立

土井大輔研究員、高橋淳教授らの研究グループは、大阪大学・株式会社カン研究所と共同で臨床応用に向けたヒト iPS 細胞由来ドーパミン神経前駆細胞の製造方法を開発しました。

#### ポイント

- ・リコンビナントラミニン(ラミニン-511 E8フラグメント)を用いた分化誘導法により、ヒト iPS 細胞からドーパミン神経細胞の大量培養が可能になった。
- ・抗コリン抗体を用いてドーパミン神経前駆細胞を選別することで、より安全で効率的な細胞移植が可能になった。
- ・iPS 細胞を用いたパーキンソン病治療の臨床応用に向けたプロトコルを確立した。



#### 今後の展開

臨床応用の前に、今回のプロトコルで作製された細胞を霊長類モデルにも移植してより長期の経過観察を行い、安全性や有効性を詳しく確認する予定です。また、iPS 細胞は自家移植が可能です。パーキンソン病患者さん由来の iPS 細胞から作製し

たドーパミン神経が脳内で機能するかについても検討が必要です。これらの課題をクリアし、臨床応用に進みたいと考えています。

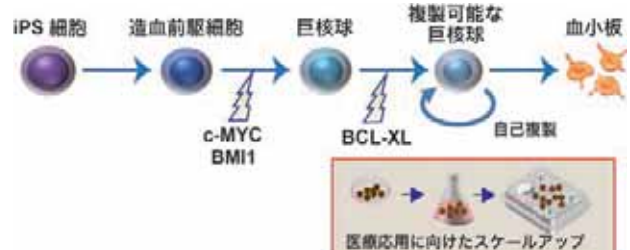
### 2. 血小板を安定的に大量に供給する方法を開発

中村壮研究員、江藤浩之教授らの研究グループは、ヒト iPS 細胞から自己複製が可能な巨核球を誘導することに成功し、大量に血小板を生産する方法を確立しました。

これまでも iPS 細胞から血小板をつくることはできていましたが、輸血に必要な量の血小板を生産するのは困難でした。

#### ポイント

- ・従来の方法では、iPS 細胞から輸血に必要な血小板量の100分の1程度しか作れなかった。
- ・iPS 細胞から、生体外で自己複製でき、凍結保存が可能な不死化巨核球を誘導する方法を確立した。
- ・iPS 細胞ストックとも協力し、複製可能な巨核球をストックすることで、希少な HLA 型や HPA 型であっても血小板製剤の供給を安定化できる。



#### 今後の展開

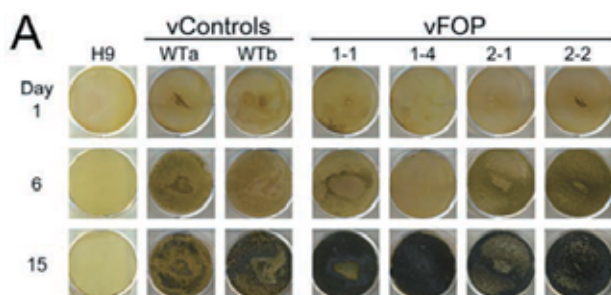
このシステムを用いた臨床研究を2015年～2016年に計画しており、最終的には臨床試験を経て10年後の実用化を目指しています。

### 3. 難病 FOP の状態を体の外で再現

松本佳久大学院生（京都大学 CiRA / 再生医科学研究所 / 名古屋市立大学大学院）、池谷真准教授、戸口田淳也教授、エドワード・シャオ博士（グラッドストーン研究所 / カリフォルニア大学サンフランシスコ校）らの研究グループは、難病 FOP（Fibrodysplasia Ossificans Progressiva；進行性骨化性線維異形成症）の患者さんの細胞から作製した iPS 細胞を用いて、病態の再現に成功しました。

#### ポイント

- ・ FOP 患者さん由来の iPS 細胞を骨・軟骨へと分化誘導したところ、骨化・軟骨化が進みやすい細胞であることを見出した。
- ・ この細胞を FOP のモデル細胞として利用することで、FOP に効果のある薬を探索することができる。



骨化が進む環境で iPS 細胞を培養し、1、6、15日目に骨化の度合いを測定する染色を行った。FOP 患者さん由来の細胞ではより黒く染まっており、骨化が進行していた。

#### 今後の展開

本研究では FOP による骨化・軟骨化を緩和するような薬の候補となる物質を探すための評価系を確立しました。これにより、FOP の創薬研究が一層加速することが期待されます。

#### iPS 細胞研究基金パンフレットの配布協力の御礼

「神緑会への感謝の集い」では、iPS 細胞研究基金パンフレットの配布を多くの方々にお申し出いただき、誠にありがとうございます。もし、続けて基金パンフレットの配布にご協力くださる方がおられましたら、以下の方法でご連絡いただければ幸いです。

今後も、iPS 細胞研究の一日も早い実用化を目指して努力して参ります。ご理解・ご支援のほどを切にお願い申し上げます。

#### 【基金パンフレット配布へのご協力方法】

iPS 細胞研究基金のパンフレット配布にご協力くださる方は、末尾のご連絡先にメールかお電話、FAX などでご連絡いただき、

神緑会会員である旨 お名前 必要なパンフレットの部数 送付先ご住所 をお教えください。

在庫のない場合などを除き、2週間ほどでお届けいたします。

#### 【iPS 細胞研究基金へのご寄附方法】

iPS 細胞研究基金へのご寄附を検討されている方は、以下の連絡先にお電話やメールでご連絡ください。その際に、「神緑会の 〇〇 様です」とご連絡いただければ幸いです。ご寄附を希望される方には、資料をお送りいたします。また、京都大学基金ウェブサイトからは、クレジットカード等でもご寄附いただけます。（クレジットの場合は年1回/2回/毎月の自動引き落としも可能です）

ご寄附をくださった方には、後日アンケートをお送りしています。そのご返送の際には、「神緑会」ご所属の旨をご記載ください。

#### 【連絡先】

iPS 細胞研究所 iPS 細胞研究基金事務局  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53  
TEL：075-366-7152 FAX：075-366-7023  
メール：ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp

#### 京都大学基金ウェブサイト

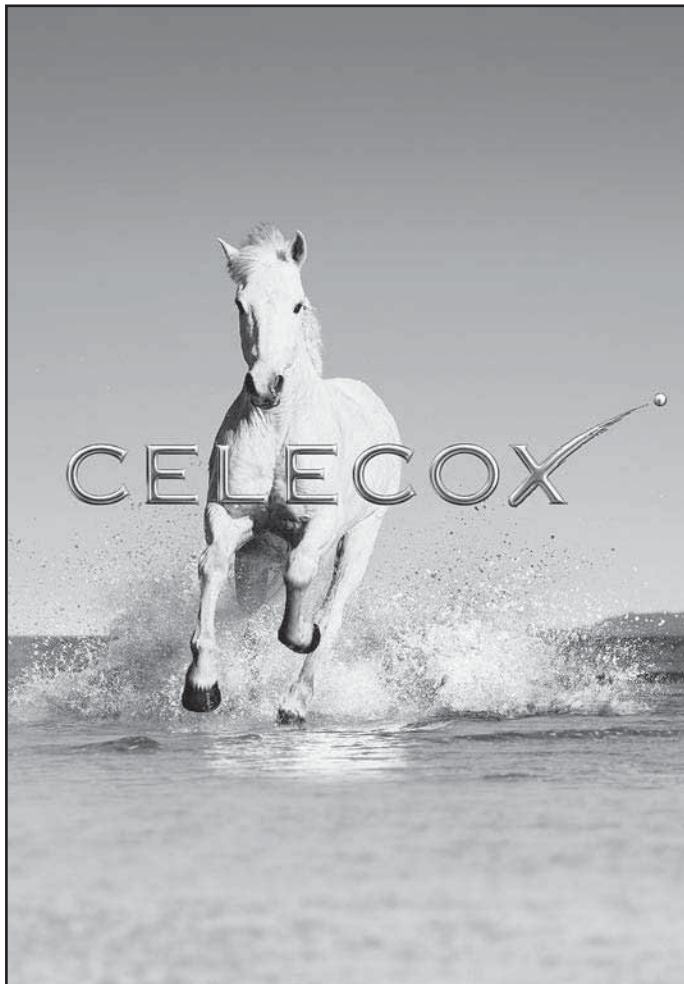
「京都大学基金」で検索してください。URL は以下の通りです。

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

#### 山中教授論文『不正は無い』

5月13日の新聞紙上で2000年に発表した論文にインターネット上で疑義が指摘された問題で掲載の欧州専門誌から「不正な画像やデータの操作があったとは考えられない」とする公式見解が示された。同様に生データの一部を保存してなかった事についても実験ノートの最低限の保存期間をはるかに超えており問題視しないとした上で「不確実な根拠に基づいて論文に疑惑がかけられたとすればきわめて残念だ」と述べた。

山中所長の沈痛な記者会見を見られた方は「何事か？」と思われたと思いますが、一件着落です。STAP細胞研究の混乱の影響でしょうが、引き続きの研究の進展を期待します。  
神緑会編集委員会誌



非ステロイド性消炎・鎮痛剤 (COX-2選択的阻害剤) 薬価基準収載

# セレコックス錠 100mg 200mg

劇薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

セレコキシブ錠

■「効能・効果」「用法・用量」「警告・禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 アステラス製薬株式会社

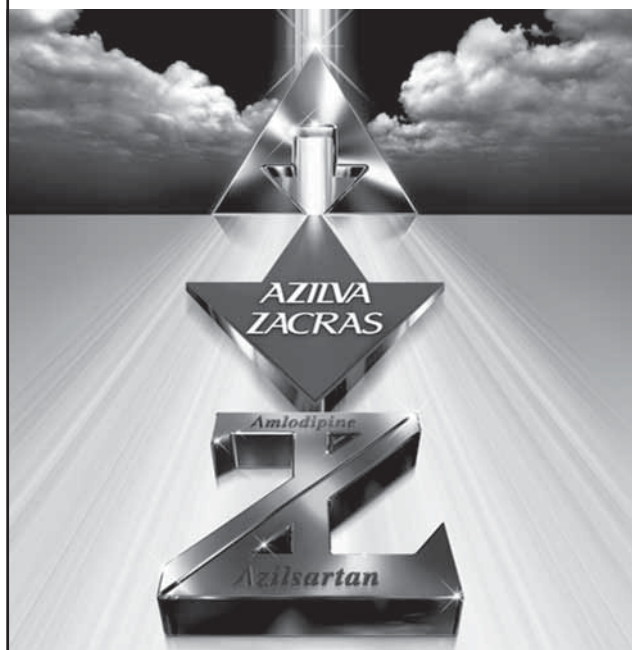
東京都中央区日本橋本町2-5-1  
[資料請求・お問い合わせ] 営業本部 DIセンター ☎0120-189-371

販売提携 ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
資料請求先：製品情報センター

2014年4月作成. 130×180mm

Better Health, Brighter Future



持続性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー  
処方せん医薬品<sup>注)</sup>

薬価基準収載

# アジルバ錠 20mg 40mg

(アジルサルタン錠)

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

発売準備中

持続性AT<sub>1</sub>レセプターブロッカー／持続性Ca拮抗薬配合剤  
劇薬・処方せん医薬品<sup>注)</sup>

薬価基準未収載

# ザクラス配合錠 LD HD

(アジルサルタン/アムロジピンベシル酸塩配合錠) 注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

2014年3月作成

[資料請求先]

武田薬品工業株式会社

医薬営業本部 東京都中央区日本橋二丁目12番10号 〒103-8668



## 1枚の卒業記念写真 — 神田知二郎と杉田雄 —

神戸大学大学院医学研究科神経発生学分野 寺島俊雄（特別会員）

何かの用事で図書館に行った際に、2階の開架式書棚の一番奥の棚にある「医学生とその時代」という白い表紙の大型本が眼に入った<sup>1)</sup>。取り出してページをめくったところ、この本は明治初期から戦後にかけての東大医学部の卒業アルバムから写真をピックアップした写真集で、北里柴三郎など秀でた業績を挙げた卒業生の写真ばかりではなく、水原秋桜子、斉藤茂吉、阿部公房など文芸の分野で名前

を遺した卒業生の写真もある。私の専門の解剖学の分野では赤核の小川鼎三、比較解剖学の西成甫などの写真も含まれていて、実に興味深い写真集である。この写真集の中で明治13年（1880）に卒業した東京大学医学部第2回卒業生の卒業記念写真に目が釘付けになってしまった（図1）。その写真にはお雇い外国人医師のベルツ、シュルツ、エーキマン、ランガルトの他に、和服姿の17名の卒業生が

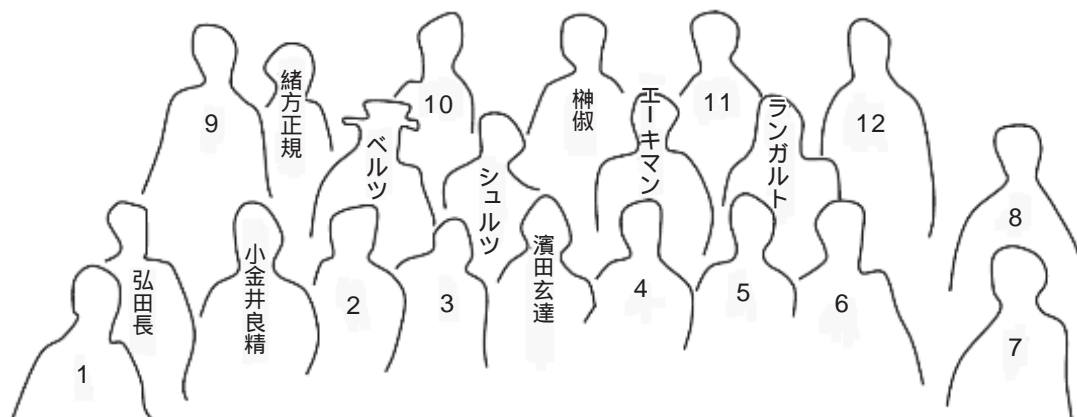


図1 明治13年に卒業した東京大学医学部第2回卒業生の記念写真。中段左よりお雇い外国人のベルツ、シュルツ、エーキマン、ランガルト。卒業生のうち弘田、小井、濱田、緒方、榊の5名は同定できるが、他の12名は未同定。おそらく番号10が神田で番号1あるいは12が杉田ではなかろうか。（文献1）

写っている。この写真の説明を読むと、明治13年卒の17名のうち、濱田玄達、小金井良精、緒方正規、神 俣、弘田長の5名は同定ができていますが、伊東盛雄、小林廣、伴野秀堅、伊勢錠五郎、杉田雄、長尾精一、神田知二郎、鈴木孝之助、石川公一、沼浪貞吉、菅之芳、戸山林助の12名の同定はできていないとのことである。

この未同定12名の中の神田知二郎は県立神戸病院の病院長で神戸医学校・薬学校の校長であり、その写真がわずか1葉であるが残されている(図2左<sup>2)</sup>)。この写真と記念写真を比較してみたところ、後列左より3人目(番号10)で緒方と神の間の細面の柔らかな面立ちの人物が、神田知二郎に実に良く似ている。髪分け方も同じである。この人物が神田知二郎であれば、この記念写真は、現存する神田知二郎の2枚目の写真であり、神戸大学医学部の前身の県立神戸病院・神戸医学校を知る上で貴重な写真といえよう。未同定人物の中にもう一人の神戸病院・神戸医学校の関係者を見つけることができた。神戸医学校の1等教諭で後に副院長に就任した杉田雄である。その後、杉田は神戸病院を辞して開業したので神戸市医師会史を調べたところ、幸いにもその扉に杉田雄組合長の写真を見つけることができた(図2右<sup>3)</sup>)。杉田は神戸市医師組合の組合長をしていたのである。白晳の美男とはこういう人のことをいうのであろうか、知的で整った顔立ちである。この写真と集合写真を比較すると、下段の左端に座っている人物(図1中の番号1)が杉田ではないかと思うが、最上段の右端の人物(図1中の番号12)も杉田の可能性があり私には確信がもてない。写真集では未同定者として扱われている伊東、伊勢、長尾、鈴木、菅の写真も別の資料から

見つけることができたが、この卒業記念写真との対応づけには自信がない。誰しも経験することであるが、青年期と壮年期では全く顔立ちが変わるのである。また残念ながら小林、伴野、石川、沼浪、外山の5名の医学士の写真を見つけることはできなかった。

未確定であるが、ともあれ1葉の東大医学部の卒業記念写真の中に草創期の神戸病院・神戸医学校のリーダー2名を見つけたことは驚きであった。なにしろ当時は大学医学部といえば東大医学部しかないし、その卒業生(医学士という)は、毎年十数名しか世に出ない。金の卵どころかダイヤモンドの原石にも匹敵する貴重な人材であった。というのも明治15年(1882年)5月27日に医学校通則(明治15年文部省達第4号)が制定され、医学校は甲種・乙種に二別された。甲種医学校の卒業生には無試験で医師の資格が与えられるのに対して、乙種医学校の卒業生には、医術開業試験の受験もしくは甲種医学校への入学が課せられたのである(医学通則第2条<sup>5)</sup>)。廃藩置県後、雨後の筍のごとく日本各地にできた公立や私立医学校を整理し、オランダ医学、イギリス医学に基づく医学教育からドイツ医学に基づく医学教育に転換するためである。医学校がこの甲種の認定をとるためには、医学士つまり東大医学部の卒業生(あるいは外国の医学校卒業生)3名を教諭とする必要があった(医学通則第10条)。だから地方の医学校は高い給料で東大医学部を卒業した医学士や外国人医師を雇用して、何とか甲種認定をとろうと努力していた。

そのような状況の中で神田知二郎と杉田雄は明治13年7月 東大医学部を卒業し、医学士の称号を得た。神田は同年10月に姫路病院長に着任し、転じて明治15年4月神戸医学校長に任命された。そして明治16年5月、白井剛策院長の退任を受けて神戸病院の院長に就任する。一方、杉田雄はしばらく東大医学部附属病院で外科を学び、明治15年7月に神戸医学校に1等教諭として着任する。その後も神中正雄(明治15年卒)、鶴崎平三郎(明治16年卒)、佐野誉(明治18年卒)などの東大医学部卒の医学士が神戸医学校・神戸病院に続々と着任していることから、医学士の配置に権限をもっていた内務省は、神戸医学校を関西における医学教育の核とするつもりだったのではなかろうか。

神戸大学医学部50年史<sup>8)</sup>によると神戸医学校が



図2 神田知二郎(左)と杉田雄(右)(文献3)



甲種医学校に認定されるのは、明治15年4月ということであるが、私の調べではこの時点では医学士は神田1名しかいない。医学部50年史の年表の明治15年4月の欄には、校長として神田知二郎、教諭として医学士神中正雄、佐野誉、富永藩五郎、杉田雄の計5名の医学士の名前が挙げられているが、神中は明治15年7月卒、佐野は明治18年7月卒、杉田の着任は明治15年7月である。富永藩五郎の名前は東大医学部の卒業生名簿にない（外国の医学校の卒業か？）。神戸医学校が甲種認定を受けるためには、あと二人の医学士（あるいはそれに相当する外国の医学校卒業生）が必要である。医学部50年史によれば神戸病院の外国人医師ヘイデンが契約満了となりオランダに帰国するのが明治15年10月であるからヘイデンが医学士としてカウントされた可能性がある。しかし神戸市医師会沿革史では、ヘイデンが神戸病院を辞するのは明治14年2月15日で、以後は外国人医師を置くことを廃止したとあるから、明治15年4月には外奥人医師はいない。さらに神戸市医師会沿革史では神戸医学校が甲種の認定を受けたのは明治15年4月ではなく同年12月である。その時点であれば神田、杉田、神中の3名の医学士が神戸医学校にそろい、甲種医学校の認定を受けることができる。不明な点が残るが、いずれにしても神戸医学校が甲種医学校として認定されたのはかなり早い方に属すると思われる。

医学士神田知二郎は病を得て明治22年3月28日

にその短い生涯を終える（享年36歳；満34歳）。神田の遺徳を顕彰する石碑が神戸大学医学部敷地内の神緑会館内にある。神田の経歴については神戸大学医学部50年史や神緑会雑誌などに既に何度も紹介されているので省略するが、医学士杉田雄<sup>いさお</sup>についてはあまり知られていないので少し詳しくその経歴を説明しよう<sup>6)</sup>。

杉田雄は解体新書を著した杉田玄白<sup>やしゃご</sup>の玄孫で、安政5年12月22日（西暦1859年1月25日）江戸浜町<sup>やまぶしのいど</sup>山伏井戸<sup>げんたん</sup>にて父の玄端、母の俊子の四男として出生した。浜町は現在の東京都中央区日本橋浜町のことである。山伏井戸はその名前の通り、江戸時代、山伏が飲用に用いた井戸で、その水は歯痛に効き、井戸の蓋には常に楊枝が供えられていたという。井戸は明治15年に取り潰され、現在はその正確な場所は不明である。江戸切絵図によれば山伏井戸のすぐ前に杉田玄丹の自宅があるが<sup>7)</sup>、これは杉田玄端の誤りではなからうか（図3）。

父玄端は幕末から明治にかけて活躍した医師・蘭学者で、幕府お抱え医師として勝海舟などの幕府要人の主治医を務める一方、蕃書調所教授としてオランダ語の地理書などの翻訳を行っている。明治元年、杉田家は家を挙げて静岡県沼津に移住した。父の玄端が新政府を嫌い、旧幕府の人材が多かった沼津兵学校附属病院に出仕したからである。杉田雄は沼津兵学校附属小学校にて勉学を始め、高須某に就いて漢籍を学んだ。明治5年、上京して同年10



図3 山伏井戸（赤枠）の前に杉田玄丹（青枠）とあるのは杉田玄端の誤りか？（文献7）



月、大学東校（後の東大）に入学し、予科を経て本科に進み医学を学んだ。明治13年7月、東大医学部を卒業し、医学士となる。卒業後、明治14年1月より東大医学部附属病院の外科の当直医を命じられて、シュルツ、スクリパ両師に就いて外科学を学んだ。明治15年7月県立神戸医学校の1等教諭に招聘され、同17年5月神戸病院副院長に就任した。医学校における杉田の外科の講義は、些末を避け、要点を射た講義で、学生の人気も高かった。図4は杉田雄の外科学各論講義（口述）を筆記した池田宇之助のノートである<sup>8)</sup>。こうして内科に秀でた神田知二郎と外科に秀でた杉田雄の絶妙の連携により県立神戸病院の名声は大いに高まり、多くの患者が門前に押し寄せた。しかし明治19年12月、杉田は開業を決意し、惜しまれて神戸医学校と神戸病院を辞した。学生は杉田に翻意を促すために辞職反対運動を展開したというから、杉田は相当の人格者であったのだろう。杉田は翌20年3月に坂本村に私立杉田病院を設立した。この坂本村は、現在の神戸大学医学部が位置する楠町から大倉山の周辺である。杉田病院は、神戸における私立病院の嚆矢となるものであり、以後設立された私立病院は、その範を杉田病院に求めた。名医として名高い杉田の治療を求める患者で病院は満ち盛業を極めた。しかし院長職に加えて神戸医師組合の組合長、東山避病院長を兼ねるなど多忙を極めたため、体力を消耗した杉田はついに病床に伏す。酒を深くたしなんだことも杉田の健康に影響したことであろう。病院の経営は次第に衰勢となり患者も離散した。杉田雄の

弟の杉田盛<sup>さかり</sup>は明治26年7月東京帝国大学医学部を卒業し、兄に代わり杉田病院の院長に就任した（図5）。盛は兄を良く助け、漸く病院の勢いは元に復した。盛は明治29年、京都府峰山町に開設された丹州病院の院長に就任するために神戸を去る。一方、診療を続けながら脊髄炎の闘病生活を送る杉田雄は明治39年7月に若くして死んだ（49歳）。娘の歌人で小児科医の杉田つるによれば死ぬ日の午前中も診療を続けたという<sup>9)</sup>。その杉田つるは杉田雄の一人娘として明治15年神戸市仲町に誕生した。明治29年湊川小学校を卒業し、同校附属裁縫専修科に進む。父の杉田雄の死後、医師をめざして母とともに上京し、明治41年に医術開業試験に合格する。東京本郷二丁目にて小児科を開業しながら、東京帝大小児科教室研究生となる。最初の指導教授は父の同級生の弘田<sup>ひろた</sup>長<sup>つかさ</sup>教授であった。戦後は国立東京第一病院二宮分院の主任医師として戦災孤児の養育に尽くした（図6）。杉田つるは昭和32年、神奈川県二宮町の自宅にて死ぬ（享年76歳）。

神田、杉田以外の明治13年卒業生はその後どのような人生を歩んだらうか。当時の東大医学部では成績の上位者3名をドイツに留学させ、先端的なドイツ医学を学ばせた。そして彼らが帰国すると順次、教授に就任させ、その一方でお雇い外国人医師の任用を打ち切ることにより純国産の医学教育を目指した<sup>10)</sup>。第2回卒業生では、小金井、緒方、榊の3名がドイツに留学し、帰国後は、それぞれ解剖学の教授（第2代目）、衛生学初代教授、精神科学初代教授となった<sup>11)</sup>。残りの14名の医学士は、卒後

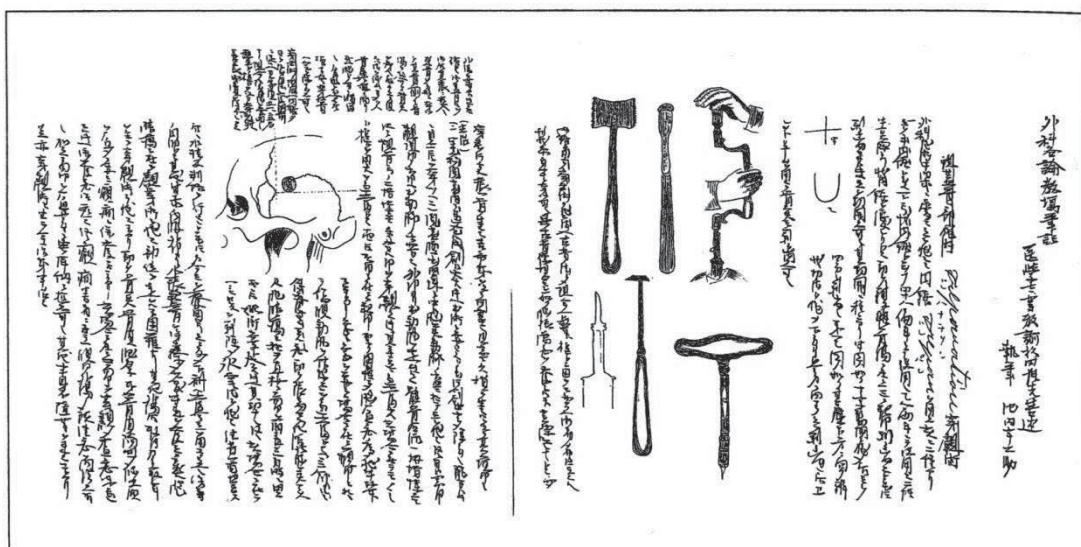


図4 池田宇之助による外科学各論（杉田雄医学士による口述）の筆記ノート（文献8）



図5 杉田雄の弟の杉田盛



図6 杉田雄の一人娘 杉田つる（右端）。相模二宮海岸にて（文献9）

に直ちに地方の県立医学校や県立病院に配属されるか、ある期間、東大医学部の附属病院で修練を受けた後に地方に散っていった。神田は前者の例であり、杉田は後者の例である。地方病院に勤務後、大学教授（初代小児科教授弘田長）、軍医（海軍軍医総監鈴木孝之助）、侍医（伊勢錠五郎<sup>じょうごろう</sup>）になる者もいた。

明治20年、明治政府は府県立医学校費用ノ件（勅令第48号）にて地方税で府立・県立医学校を運営することを禁じたため、多くの医学校が廃校の憂き目を見る。県立神戸医学校も明治21年3月に廃校に至る。神戸病院は、その創立以来、ベッダー、ハルリス、ペリーなどのアメリカ医学、ついでヘイデンによりオランダ医学が導入されており、神田・杉田・佐野によるドイツ式医学教育も十分に行われており、他の存続した医学校と教育や臨床のレベルにおいて遜色は無かったと思われる。神田校長の人格が温厚に過ぎて計略の才には乏しかったこと、また病弱であったことを廃校の理由に挙げるむきがあるが、神田のみに廃校の責を求めるとは気の毒ではなからうか。

明治政府は明治19年に発布された第一次中学校令により全国を5学区に分けて、それぞれに高等中学校を設置した。この高等中学校は文部大臣が管理し、その費用は国庫とその地方税で分担した。全国で5つある高等中学校のうち第二高等中学校（仙台）と第四高等中学校（金沢）は本校とそれに付属する医学校が同一都市にあるが、本校と付属する医学校が別の地域にある例は3つほどある。第一高等中学校（東京）と千葉医学校、第三高等中学校（京

都）と岡山医学校、第五高等中学校（熊本）と長崎医学校である。第一学区には当時唯一の大学である東大医学部があるから東京に重複して官立医学校をおく必要はなく千葉にこれを置いたのだろう。また第五学区の長崎医学校はオランダ医学の門戸であった学校であるから、熊本ではなくてここに官立医学校を置いた理由も納得できる。しかし第三学区（近畿・中国・四国）を管掌する第三高等中学校（京都）に付属する官立医学校として京都、大阪、神戸の各医学校ではなく岡山医学校が選択された理由がわからない。もちろん岡山は地理的には第三学区の中心であり、藩校としての歴史も長い、歴史といえは緒方洪庵による適塾以来の大阪が最も抜きん出ている。その理由はわからないが京都、大阪、神戸の各医学校は第三学区の官立医学校の選から漏れたが、京都と大阪は愛知医学校（のちの名大医学部）と同様に地方税に依らず、自助努力により学校の存続に成功してそれぞれ現在の京都府立医大と阪大医学部になる。神戸医学校もこの三校と同様に地方税を用いずに医学校を存続することができれば、別の歴史が用意されていたことだろう<sup>12)</sup>。

卒業を記念した1葉の集合写真の中に、明治初期の揺れた医学教育政策の中で幸運にもその志を全うできた学生もいるし、政治的な情勢や病を得たために十分に志を全うできなかった学生もいる。人の人生の幸・不幸は、当人の努力を超えた辺りにあるが、後世に名を遺した学生はともかくも、卒業後の経歴がほとんどつかめない学生がいるのは何やら気の毒さえある。せめて卒業記念写真の顔と名



前を一致させることぐらいはできないものが、もう少し調査を続けてみたい。

(平成26年4月27日)

#### 文 献

- 1) 東京大学医学部医学部附属病院創立150周年記念アルバム編集委員会(編集)医学生とその時代 東京大学医学部卒業アルバムにみる日本近代医学の歩み 中央公論社 2008年
- 2) 神緑会雑誌編集部編 神緑会館、神田知二郎碑の由来 神緑会雑誌 19: 80-83, 2004
- 3) 神戸市医師会編集 神戸市医師会沿革史 昭和12年
- 4) 医学校通則 制定: 1882年(明治15年)5月27日「第二条 医学校ハ之ヲ分テ甲乙二種トス。甲種ハ尋常ノ医学科ヲ教授シ、以テ医師ノ具成ヲ図リ、上款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス。乙種ハ簡易ノ医学科ヲ教授シ、以テ医師ノ速成ヲ図ルトキ、若クハ甲種ヲ設置スル能ハサルトキニ於テ下款ニ遵ヒ之ヲ設置スルモノトス。」
- 5) 神戸の医学史年表 [http://tsukaken2.world.coocan.jp/tukakenHP1/tukakenHP/PROJECTS/tsukaken.pro\\_archive/kobe-igakuproject/kobe-igagkushinenpyo.htm](http://tsukaken2.world.coocan.jp/tukakenHP1/tukakenHP/PROJECTS/tsukaken.pro_archive/kobe-igakuproject/kobe-igagkushinenpyo.htm)
- 6) 木村銀次郎著 近畿名士偉行伝・第3編 出版 光世館 明治26-27年
- 7) 安藤菊二著 切絵図考証二 郷土室便り 第15号 page 1-4 昭和51年12月 東京都中央区立京橋図書館編集・発行(なお山伏井戸については安藤菊二著 切絵図考証三 郷土室便り 第16号 page 1-4 昭和52年3月に詳しい)
- 8) 神戸大学医学部五十年史(神戸大学医学部五十年史編纂委員会編) page 712~717 平成6年刊
- 9) 石原兵永編 杉田つる博士小伝 杉田追憶文集刊行会 昭和33年刊
- 10) トク・ベルツ編 菅沼竜太郎訳 ベルツの日記(上)(下) 岩波書店 昭和54年
- 11) 星新一著 祖父小金井良精の記(上)(下) 河出書房 平成16年
- 12) 神戸大学医学部50年史(page 9)には、「勅令第48号布達により、府県立医学校の費用は東京、大阪、京都の医学校を除いて(明治)21年以降、地方税を持って支弁することを禁じられたのである。」とあるが、この除外規則の記載は本当だろうか。そもそも東京には府立の医学校はないし、大阪、京都は愛知と同様に地方税によりその経費を負担することを禁じられたため、苦勞して経営努力を重ねて存続したのであって、除外規則の適応は無かったのではないだろうか。



## 藤田 英夫 氏 来 訪

### 「神戸史談」にて「明治初期の神戸病院」の写真の特定を報告

「明治期の神戸病院の跡地を尋ねて」(神緑会ニュースレター第5巻第4号、2014年2月28日発行、23p～27p)は、本学神経発生学の寺島教授と薛技術専門員の論文で忘れていた明治期の神戸病院について改めて強烈にその過去の存在を神緑会員に印象付けました。145周年の記念事業の一貫として神緑会側から本来出てくるべきであったが、不思議な近視眼的なねじれ(昭和19年発足の医学専門学校が起源)でそうならなかった。寺島教授流の神緑会特別会員ながら「自分が給料をいただいている大学の源流ぐらいいはつきり知らずに居るのは心苦しい」との表現ながら明らかにされた内容は相当な努力の賜であった。40周年記念事業では、京都大学教養部図書館に眠っていた4枚の写真が神戸病院とタイムリーに特定された事の幸運を当時の溝井医学部長が神戸新聞に報告された(神戸新聞 昭和62年4月10日、随想 前身発見、藤田氏による発見の経緯と西本願寺別院、通称モダン寺のすぐ西に見つけたと書かれている)。残念ながら、その新聞記事を知らない人が多く、仮に薄ぼんやりと記憶していた人も50周年、60周年記念事業では、その話は記念誌の一部を飾る程度で、現実の会話では「かけら」も登場していなかったのではないのでしょうか。「死んだ子の年を数える」事は、意味が無い事の「喻え」なのでしょうか?この点は、関係者で議論する必要があります。

ただ、京都大学教養部図書館にあった4枚の写真を神戸病院と特定した人物は別にいました。「神戸史談」は大正15年創刊でその255号、昭和59年7月

に「神戸病院の明治初期の写真に関する一考察」が掲載されていました。発行している「神戸史談会」に30年の経過を実感しながら、はやる気持ちを抑えながら電話をすると、幸いにも前年まで会員であった藤田英夫氏の連絡先を教えてくださいました。電話番号を回す間も幸運を祈るしかなかったのですが、電話での話を経て交流が始まりました。寺島教授は、退職前のメールアドレスを通じての連絡には返事がなかったとのことも含めて唯一の証人を突き止めた感すらあります。いろいろなやりとりの後、2月28日藤田氏が有馬温泉での湯治の後で神緑会館を訪問されました。前田と寺島教授、味木教授が対応し、パワーポイントでの歴史的な事情の詳しい説明と関連資料を受け取りました。

ご提供いただいた資料

1. 神戸の歴史 59p～74p 神戸病院総括 森 信一(龍玄)像を求めて
2. ベッダーのみた幕末・維新期の医学の実情 ベッダーと神戸
3. ボードインを困む学生たち 長崎での森信一の写真について
4. 前述の溝井元医学部長神戸新聞のコピー
5. ガワー兄弟と神戸 神戸史談257号 49～52p 後日談があって、問題の写真を神戸病院と特定した人物に他の人の関与があるとの考えでの混乱でした。私が深く知らなかった関係で、「明治期の神戸病院 40周年記念事業から」(神緑会学術誌、第一巻～第三巻、それぞれ、57p～59p、85p～89p、138p～142p 38年卒の住野公昭執筆)を寺島



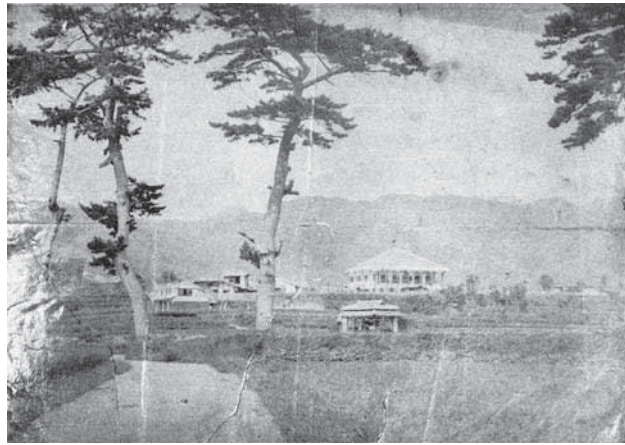
藤田氏(味木、寺島、前田対応)



藤田 寺島氏



江馬内科（明治33年神戸病院移転後に建設）



究理堂所蔵の明治期神戸病院  
解剖所完成しており、明治5年頃の写真

先生の投稿準備原稿と共に藤田氏にお送りしました。ただ、その第二巻には、「実は近盛氏が神戸病院ではなかろうかと判定し、下山手通りに育った氏が再山道の道標を見つけたのがきっかけである」との記述がありました。その反論として藤田氏からは、「この時の関係者が藤田氏以外生存されておらず、他の方の話も聞いたが自分が間違いなく特定した」との説明の元に、補充史料として送られてきたのが恩師宛の以下の手紙です。100年以上の経過で、しかも特定からでも30年が経過し、正確な資料がなくなるのは当然です。重要と思われる資料も

それぞれの個人所有で分散しております。その集約に神緑会や医学部が何度か取り組んだ経緯がありますが、実現していません。「今を最後」と考えての取り組みを強く訴えます。期せずして再山道の道標がきっかけであり、寺島論文にあるように、山手幹線近くの他の2本の道標は土から20cm～30cm程度で上の部分が無くなって字が認められない状態を見ると今でも確認できる明治期の神戸病院近くの道標が我々に伝えようとしている何かを感じずにはおられない。

恩師（実名入り）

1984年3月15日

拝啓

先生にはご健勝のことと存じます。さて、先生が神戸史談の編集委員もしくは神戸史学会会員ではないかとの前提で明治初期の神戸病院について述べたいと思います。結論から申しまして同封写真に類するものが4枚あり、明治4～5年の神戸病院であると判明しました（私どもの所属の図書館蔵）。懐かしい写真であり、地元の方々にも是非紹介してみたいと思い、少し説を加えさせていただきます。

私が大阪舎密局の化学史的調査を試みている関係から4枚の写真がどこの写真かとの問いを受けたのは2年前でした。他にも色々の写真があるわけですが全く表示がない立派な写真はこれらだけでした。当初は、長崎、横浜の風景かな程度で思っていました。昨秋、「化学史研究会」で故仁田勇先生がウェッデル（A.M.Vedder）に少し触れたのが契機にしてその人物を探しておりましたところ、ジョゼフ彦の会の近盛氏がVedder（神戸病院の初代の教頭）の写真が公表されました。同時に神戸病院の沿革にも少し触れられ、今はその跡さえ明確で無いことを知りました。ここで2つのことが判りました。1つは舎密局開設記念写真（明治2年5月1日）にVedderが登場していること、

2つは、謎の写真4枚は一对であり神戸の風景、しかも神戸病院自体であろうとの予測です。此处では、2点目のみに触れます。もう一度図書館の係長（富岡平治氏）と写真をにらみつけました。よく見ると同封写真に石柱があり、拡大すると仏像をいただいた「左再山道」という道標であると判りました。これは再度山道を示すはずで、もう一枚をよく見ると拡大写真で「病院」の看板の字が読め、横の看板もオリジナルを拡大鏡でみると「Hospital」とかろうじて読めることが判りました。この1月下旬のことです。一部の不安はありましたが、古地図と現在地図と4枚の写真を見つめて狙いをつけて道標の現存に総てをかけた。1月28日の夕刻、同封左下スミの2枚の写真のように、今日でも同じ位置に道標が建立している事を発見しました。謎の4枚の写真は、神戸病院の写真だったのです。道標の後ろの建物はその後、「御番所」と判りました。道標については別の興味もあります。「再山道」であって「再度山道」と記名してない点、に時代を感じますし、「婦たたび山道」であることは変わりなく、願主が播磨本庄古宮の人物であるのも面白いところです。

一方、神大史「神戸医科大学史」を調べたり色々しましたが、「神戸開港三十年史上・下」より詳しい資料には（その原資も不明）まだ当たることができません。神戸病院の明治初めの写真は、もちろん神大及び同医学部にもありません。兵庫県や神戸市の図書館などでも見つけることができませんでした。ただ前庭から海を見下ろす1枚の写真については同じものが京都の旧医家の「究理堂」（当主小石秀夫）に保存されている由を当主から伺っています（写真1）。これは、明治10年頃ヘーデンと共に神戸病院に出任した小石第二郎が入手したものでしょう（彼は後に副院長を務めていました）。

神戸病院の発見は私にとっては余録ですが、三木で生まれ育った者にとってはふるさとの歴史として思え、つつい力が入ってしまいました。もし、先生の所属の史学会誌等で興味がございましたら寄稿等の資料提供をしても良いと考えます。今後ともよろしくお願い致します。

敬 具

京都大学教養部化学教室 藤 田 英 夫

## 解 説

- ・大阪舎密局：舎密は、「せいみ」と読んで化学 Chemie と同義語。明治2年に大阪城西域に開設された理化学専門の高等教育機関。オランダ人ハラタマにより、講義と実験教育が行われ、明治19年の第三高等学校の京都移転を経て明治30年に京都帝国大学となる。
- ・写真そのものは、藤田氏の所属する京都大学図書館にあって、その由来の検討を何人かが行った。複雑なのは、近盛氏も下山手8丁目付近の地理に詳しく神戸病院跡地を指摘された。「ジョゼフ彦」の関係資料（15、16号）には、昭和57年7月に竹田元神戸大学第二内科教授を訪問し、「江馬医院のあったあたりでしょうかとお尋ねし、神戸病院

発祥の地を確認できたことはいうれしかった」と記載されていた。「病院跡は現在とも余り代わらない家並みが並んでいた」とも記載されています。一方、藤田氏は上記の手紙や神戸史談会の論文は、昭和59年と2年後であった。ただ、4枚の写真からの検索を進め、御番所前の道標や看板文字等から写真が明治期の神戸病院の写真と特定した。どちらも欠かせない重要な人物と言う事が出来る。

- ・江馬内科、病院の移転数年後に建設された。その後、同地は雅城園ホテルとなり阪神・淡路大震災後に増築前の旧館が崩れ、全体がマンションに建て代わった。



## 神戸大学医学部附属地域医療活性化センター 開所式

神戸大学医学部附属地域医療活性化センター長・神戸大学学長補佐 杉村和朗（昭和52年卒）



神戸大学医学部附属地域医療活性化センター外観

兵庫県は、南は瀬戸内海、北は日本海に面し本州を縦断する多面的風土を持ち、人口555万人余りを有する広大な県であることはご存知のとおりであります。

医療という視点で見たとき、兵庫県は計10の2次医療圏域に機能上分割されており、それぞれの圏域において大多数の診療が完結する施策が取られてきております。しかし現実にはどの地域においても新生児期から老年期に至るまでの各世代に対して、切れ目のない医療・介護の体制が充実しているかという、決してそうではありません。このような中、各圏域にそれぞれ十分な医療資源すなわち、医師・看護師をはじめとするメディカルスタッフの配置、病院・診療所および医療機器の整備等が、確保されることが極めて重要な政策課題として位置付けられてきております。すなわち、ここ数年来、医師・メディカルスタッフの偏在が進み、特に医師の都市部への過度の集中が社会問題として取り上げられるようになってきました。そのような現状打破のため、兵庫県行政において県養成医制度が設けられ、現在では、医学科新入生のうち毎年、神戸大学医学部で10名、兵庫医科大学で5名、自治医科大学で2～3名、岡山大学に1～2名と鳥取大学で1～2名ずつ、兵庫県からの奨学金貸与を受けた県養成地域卒学生が入学する状況となっております。この養成医学生は医学部卒業・医師免許取得後、9年



式辞・杉村センター長

間のへき地を含めた地域病院での義務勤務年限を有します。そしてさらにその後も、出来れば、地域に根付いて、地域医療従事をライフワークとする医師となってもらいたいというのが、行政そして何よりも地域住民の願いであります。

このような中、神戸大学医学部附属地域医療活性化センターが、兵庫県との連携により、神戸大学医学部から有馬街道を渡った至近距離（徒歩3分）の場所に新しく出来上り、地上3階、地下1階、総面積3412㎡の近代的な鉄筋建築として2014年4月にオープンいたしました。

当センターに最も期待されるのは、大学と県とが一体となって、地域医療を担う医療人材の卒前から卒後に至る一貫した教育研修を担うことであります。また、そのことにより、へき地を含めた県内津々浦々の医療機関に勤務し、地域の医療充実に邁進する優れた医療者を養成することが大きなミッションとなります。県養成医の研修・派遣そして生涯教育を適正に進める機関として兵庫県地域医療支援センター分室もこのセンター内に設けられました。

センター内には、神戸大学大学院医学研究科地域社会医学・健康科学講座 医学教育学分野地域医療教育学部門および同講座プライマリ・ケア医学分野が入り、地域医療の教育研究や県養成医学生のサポート、県養成医のキャリアパス支援が行われま

す。兵庫県の奨学金を受ける地域特別枠医学部医学科学生（県養成医学生）は現在、神戸大学では、すでに38名の在学者を数えております。繰り返しますが、これらの人材がその地域医療へのモチベーションを高く維持し、医師として巣立っていった暁には、名実ともに県内の医師偏在を解消する役割を果たすという専門職業人としての高い自覚と使命感をもって業務を遂行されることが社会的にも強く期待されております。そのための拠り所、いわば医局機能として、本センターが様々な支援を実践する機能する役割と役割を担っております。

本センターは医師の養成のみならず、看護師をはじめとするメディカルスタッフの研修、生涯教育も担当いたします。医学部保健学科の学生あるいはそこを巣立った医療従事者のための様々な技術トレーニングの場として模擬病室やスキルスラボなども設けられております（臨床基本技術トレーニングセンター、地下1階）。同階には先端外科医療・内視鏡トレーニングセンターも設置され、ブタ等を用いた先端内視鏡手術などが修練できます。1階にはD&N plus ブラッシュアップセンターが産休・育休等を経た医療従事者の復職支援を担当する部署として拡充移転いたしました。地域医療につながる様々な研究（未病薬学等）を推進する健康科学評価センターも1階に開設されました。2階には大小の研修室が設けられ講演会やセミナーが開催できます。3階に上述の地域社会医学・健康科学講座および学生の自習フロアがあり、ここでは県養成医学生・医師が教員と直接交流できる空間が広く設けられています。3階には病理診断技術トレーニングセンターおよび遠隔画像診断支援センターも設置されました。いずれも地域医療の充実につながる人材育成に寄与する教育研修の場である重要な部署として機能し始めています。さらにエキスパートメディカルスタッフ育成センターの機能もこの地域医療活性化センターに根付き、開講します。

以上のように様々な面から地域医療を支える中

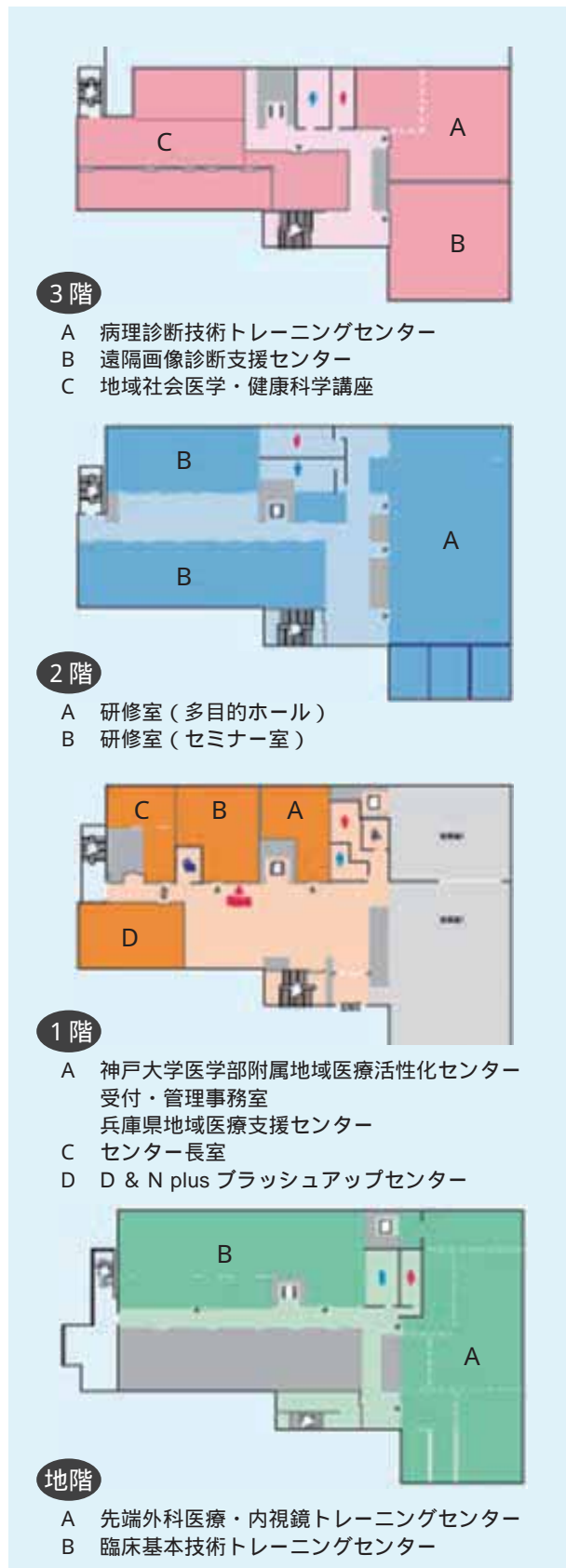


臨床基本技術トレーニングセンター（地階 B）



地域社会医学・健康科学講座ラウンジ（3階 C）

枢である本センターが、充実した発展を遂げ、その本来の役割を果たせますよう、神緑会の諸先生におかれましては、格段のご理解、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。





## 医学部長式辞

神戸大学大学院医学研究科長 片岡 徹（特別会員）



式辞・片岡医学部長

医学研究科長・医学部長を務めております片岡でございます。

本日は、神戸大学医学部附属地域医療活性化センターの開所式開催のご案内を差し上げましたところ、多数の皆様にご出席いただきまして本当にありがとうございます。とくに、兵庫県の井戸知事、文部科学省高等教育局医学教育課の手島大学病院支援室長におかれましては、年度初めのお忙しい時期にもかかわらずご出席をいただき心から感謝いたしております。

本センターは、神戸大学医学部医学科キャンパスと有馬道を隔てた至近距離に位置し、地上3階・地下1階の延べ床面積3,393平方メートルの建物となっております。土地は、移転した兵庫県埋蔵文化財センターの跡地を兵庫県から無償貸与いただき、建設費は兵庫県が獲得された国の地域医療再生基金のご支援を得ております。

本医学研究科・医学部医学科は、以前は、医学・生命科学分野の先端研究の実施及び研究者育成をミッションとする方向に傾斜しており、地域医療、とくに僻地医療、への貢献については少し本腰が

入っていなかった点是否めませんでした。しかし、平成19年度ころに、日本全国及びその縮図と言われる兵庫県における医師の地域間や診療科間の偏在あるいは医師数の絶対的不足という厳しい現実に鑑み、研究と同等の比重をもって地域医療に貢献するようそのミッションに大きな変更を加えました。

爾来、在学中6年間兵庫県から奨学金を受給し、卒業後県職員として県の指定する僻地医療機関等で9年間勤務する義務を負う県養成医の学生の受入れを平成20年度の1名から始め、平成22年度以降は国の「地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員増」、いわゆる地域枠入学定員増、に基づく学生の受入れを開始し、その数は平成22年度の3名から平成25年度には10名に達しております。現時点で、県養成医の本医学科在学者の数は38名に達しており、4年後の平成30年度以降は60名の方々が在学することになります。その後、9年間の卒業義務期間の養成医の方々の数も最大90名に至ります。また、兵庫県は、昭和47年度から自治医科大学及び兵庫医科大学において県養成医の制度を始められており、平成22年度からの地域枠も鳥取大学と岡山大学に2名ずつ設けられております。

本センターの主要なミッションは、神戸大学医学部と兵庫県が有機的に連携し、このように多数にのぼる県の養成医の皆様が卒前から卒後に至る一貫した教育と研修のみならず9年間の義務年限以降のキャリアパスの組織的な支援を行うことにより、県養成医の皆様が将来に対する憂いなしに高いモチベーションと誇りを持って地域医療、僻地医療に活躍される体制を整備することです。本センターの中に、県の地域医療支援センターの分室も設置され、大学と県が一体となって取り組む体制が整



学長挨拶・福田学長



テープカット



備されております。

並行して、本医学部の地域医療に係る教育体制の整備も進めており、地域社会医学・健康科学講座に医学教育学分野を新設し、その地域医療教育学部門の教授に自治医科大学から岡山先生をお迎えし、同先生を中核として学部を挙げて地域医療教育に取り組む態勢を固めております。

さらに加うるに、本センターは地域医療を担う医師の養成のみならず、医師以外のメディカルスタッフの方々の教育・研修を担う役割も有しており、医学科のみならず、医学部保健学科の学生やその卒業生を初めとした県内の医療機関に勤務する医師及び医師以外のメディカルスタッフの皆様のための様々な研修や技術トレーニングの場として模擬病室やスキルスラボなどの技術トレーニングセン

ターも設けられております。

それ以外にも、地域医療の発展につながる様々な教育、研究を推進するセンターが設けられております。センターの具体的構成につきましては、後ほど杉村センター長を始めとして詳しい説明があると思いますので、割愛させていただきます。

神戸大学医学部といたしましては、本センターの機能を発展・充実させ、兵庫県との有機的な連携の下、県下における地域医療とくに僻地医療のさらなる活性化と充実のできるかぎり貢献していく所存です。

最後に、本センターの構想から竣工・開設に至るまで、様々なご尽力をいただきました関係各位に深甚なる感謝の意を表しまして、式辞とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

## 井戸敏三兵庫県知事祝辞



県内の地域医療を担う人材の新たな教育・研修拠点となる「地域医療活性化センター」が完成し、記念式典が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

地域医療を取り巻く環境は、厳しい状況が続いてい

ます。

県では、これまで各般の医師確保対策に取り組んできましたが、地域や診療科目ごとの医師の偏在は依然として大きな課題です。

このような中、神戸大学医学部において、県内の医師をはじめとする医療人材の教育、研修拠点となる地域医療活性化センターが整備されました。

当センター内には、大学院医学研究科地域社会医学・健康科学講座地域医療教育学部門やプライマリ・ケア医学分野が設置され、本県との連携のもと、地域医療学の教育研究や県内の地域医療に必要な医療人材の教育・養成、さらには県養成医のキャリア形成支援を進めていくこととなります。

また、模擬患者やシミュレーター機器等を活用した基礎や先端の医療技術取得のための各種研修、医療機関からの放射線画像診断支援など、様々な機能を備え、

県内の地域医療体制の充実・強化を図っていただけるものと期待しています。

本県においても4月から、新たに兵庫県地域医療支援センターを設置し、県内の医師不足の状況等を把握・分析するとともに、医師不足病院への支援、医師のキャリア形成支援等、総合的な医師確保対策を計画的に進めていますが、今後、神戸大学の地域医療活性化センターと連携を密にしながら、県養成医をはじめ、地域医療に従事する医師の養成・派遣等により医師の確保、偏在の解消を図り、兵庫県の医療の充実・強化に一層取り組んでいきたいと思えます。

神戸大学医学部に新たに設置された地域医療活性化センターが、各機能を発揮されることにより、県内の地域医療において必要とされる人材の養成など、本県地域医療体制の推進に貢献されますよう祈念いたしまして、お祝いのこととします。



祝賀会挨拶・藤澤病院長

## 医師会会員先生方の安心をお手伝いします

- 保険料の安くなる生命保険団体扱 ■掛金の安い第1グループ保険(最高6000万円加入可)
- 従業員も加入できる第2グループ保険(最高1500万円加入可) ■あいおいニッセイ同和損保代理店
- 兵庫県医師会関連団体費用引去制度(先生の手数料負担はなし)

★詳しくは、ホームページをご覧ください。  
<http://www.hyogo-ishikyo.or.jp>

昭和30年創立



# 兵庫県医師協同組合

〒651-0086

神戸市中央区磯上通3丁目2番17号

兵医信本店ビル5階

TEL:078-271-1010

FAX:078-271-1039

先生の良きパートナーでありたい—  
私たちはそのために頑張ります。

ジェネリック医薬品

ワクチン・衛生材料

医療機器・調剤機器

カード事業(医師協カード)

生命保険・損害保険

医業経営コンサルティング

リネン・医療用寝具リース

医療用食品・食器・厨房機器

## 神戸医師協同組合

本部 神戸市中央区神若通3丁目2番15号  
TEL 078(241)8995番 FAX 078(231)0910

ホームページアドレス <http://www.kobe-ishikyo.or.jp>

神戸事業所 TEL 078(241)8991番(代) FAX 078(242)8251  
尼崎事業所 TEL 06(6438)2561番(代) FAX 06(6438)2339  
明石事業所 TEL 078(936)3535番(代) FAX 078(936)3349  
姫路事業所 TEL 079(239)5725番(代) FAX 079(239)2513  
西神事業所 TEL 078(795)6612番(代) FAX 078(795)7084

## 女性医師問題について 平成17年頃からの活動と変化

神緑会理事 千谷容子(昭和61年卒)

女性医師の問題はずっと以前から本当は存在していました。ですが、私達の時代女性は医学部内で1割にしか過ぎず、誰も女性医師の育成については経験もなく前例もなく就労出来る職場も限られており、何年か修行が積めたら開業出来れば育成成功でした。特に私が入局した第一内科では圧倒的に男性が多く、女性は1~2名いるくらいで独身が結婚出産育児後復職か離職かという人生の転換期が必ず訪れました。独身で勤務医か開業医、育児後復職か休業離職のパターンが存在します。ところが、平成10年以降女性は増加し続け、神戸大学でも4割が女性の時代になりました。女性が全員離職したらまず医師不足が起こります。現在も病院の併合や婦人科、小児科医の不足、都市型偏在等の現象が起こってきています。このままでは、適切な医師育成配分は無理になってきます。

そこで、神戸大学や医師会でも平成17年~19年頃から女性医師の就労活性化就労継続の取り組みが実施されるようになって来ました。神戸大学医学部付属病院でも、平成19年に文部科学省の補助金支援を受けて、妊娠、育児中の女性医師、看護師の臨床現場への円滑な復帰を目指して情報及び教育を提供する目的で『D&N ブラッシュアップセンター』が設置されました。そして現在も20名以上の申し込みがあり、活動を続けておられます。2014年2月1日にセンター長の錦織千賀子皮膚科学講座教授がこれまでのセンターの歩みと現況について講演会で紹介して下さいました。活動の主旨は

妊娠・出産・育児中の女性医師、看護に必要な情報がとれるWEBシステムの開発

育児中の女性医師への当直免除の短時間勤務制度の実施

各診療科でのベビーシッターの手配、はとぼっぼ保育所による病児病後保育の充実小児科医の直接のサポート

職員、学生の意識調査とその啓発などです。

現在の課題は だと言われています。意欲的な学生も多い中、将来勤務するかわからないという消極的な考えでいる女性医師も含まれています。何故勤務しないのかは個人で理由は様々です。でも

少なくとも育児や介護でのサポートは確立して欲しいです。若い女性のほうが適応しやすいので介護の方はまだ前例がないようで、今後の課題です。昨年末医師会と神戸大学とのワークライフバランスの学生講義にも参加しました。兵庫県医師会女性医師の会の研修会にも参加しました。昨年12月17日にママドクカフェに参加させていただき楽しい時間を共有させていただきました。私も一緒に勉強させて頂きました。女性医師の復職は0歳児保育や病児保育が重要である事や、私個人の体験談から新たに教育問題やPTA 役員の問題についても問題提起しました。学校の方針によってかなりの差があるので学校は勤務出来る体制が整っているか、学童保育の質も見て選ぶ必要があります。私は短時間勤務の代わりに嘱託勤務と非常勤の組み合わせでしたので、学童保育の条件には当てはまらず、受け入れてくれるとは言われたのですが、常勤医師に比べると気兼ねがあり、結局小学校低学年から夕方の塾の講座に預けるはめになり、子供達に大きく影響してしまいました。いいようになればいいのですが、そうはいかないものです。問題が起こった時責任は母親にかかってしまいます。間違っても自分の仕事の為に子供を塾に入れて辛い目に合わせないで欲しいです。そこでは勤務量を減らして子供の学校に無理がかからないようにされたほうがいいです。小学校で安定するまでは専業主婦でいた看護師さんも多いですし、女医さんもあります。後半で勤務がスムーズにいくので焦らずライフワークを保って下さい。子供はもう育てからでは後悔しても間に合いませんので、私の失敗を聞いて皆は上手に育児して下さい。低学年の塾の講座は小学校3年の転入試験の為だけでいいです。学童保育で学校になじますほうが、まだ結果がいいのではないかと私は思っています。そして子供達は女性医師や看護師の子だからといってまだ小さくて気が使えません。いじめも当然のようにあり、いじめをしたことがある子も多いようです。その中で我が子が共働きのせいで虐待にならず、学校でもいじめにあわずに、順調にすくすく成長していつくれたらきっと勤務したことがブ



ラスになるでしょう。その為に母親は育児を楽しみ、自分もハッピーであるべきだとのママドクカフェの時に講義をして下さった秋田大学の蓮沼先生のお話にとても感動しました。そしていつしかめっ面だった過去の育児中の自分が恥ずかしくなりました。これからは笑顔で子供達をハッピーにしようと思いました。最近放映された神様のカルテ2の千夏さんはあまりにも悲しすぎて、夏菜ちゃんを見ると幼児時代の自分の子ども達を思い出しました。思えば涙なしでは語れない育児と介護の過酷で壮絶な時代がありました。病院で父は私と母と双子の孫に看取られて静かに眠るように逝きました。その時双子はわずか3歳でした。幼子達には何が起こったのか理解出来ず、「おじいちゃんどうして寝ているの?」と何度ももう動かない父に語りかけていました。母はうつろな顔で父のそばから離れず途方にくれ、泣きくれました。お葬式をするのもやっとでした。でも双子の孫に会えてきっと父は幸せだったと思います。ところで、新年総会の準備中に、今回は女性理事の為に託児をすることになり、はとぼっぱ保育所をお願いしたところ、予算の都合で保母さんの確保にも困っていると聞いて驚きました。総会の質問でもありましたが、私達にも限界があることを思い知らされました。新しいポピンズという芦屋の託児サービスを紹介していただいたのですが、困ってネットで知らないベビーシッターサービスを探す前にお母さん達はまたこんな事があったことを思い出して下さい。何かの拍子にお役に立てるかもしれません。託児サービスの充実が女性医師の環境整備であり、まず提案されるべき問題です。雇用条件の多様性も必要だとずっと言われています。現在多様雇用を実施されている病院がどれくらいあるのでしょうか。女性だけの問題ではなく、男性の理解協力や院長の理解が必要です。これは男女共同の問題です。育児中は短時間勤務や非常勤での雇用はとても助かります。どうしても育児や家事、教育は祖父母がまだ若い時期に出産しておかないと、母親側に負担が偏ってしまいます。イクメンという流行語も出現しましたが、男性も育児に参加して共同で勤務出来たら理想的です。ただ男女のどちらかか、または両方に問題があって理想の夫婦の形態が取れない親も多いのです。また出産で不運に見舞われた夫婦もいます。学校は専業主婦で学校の行事や役員を簡単にこなせる母親ばかりでなくても、子を公平に教育してほしいです。宿題が出来ない子は問題児なのではなく、夏菜ちゃんのような寂しい思いを

した子かも知れないのですから。そして神戸大学医学部でもみんなで支援して子供を守り、勤務継続可能な状態にしていかなければなりません。独身の女性も、いい面も考えてみんなが納得してハッピーに勤務出来ることが目標です。

神緑会の女性医師活動は医師会や神戸大学医学部の方が私1人などよりずっと先輩で、共同で講義や行事参加させていただく事が多く、本当に皆さんに感謝しています。

それでは、昨年6月22日の理事就任以降の活動をご紹介します。

2013年度

6月22日神緑会理事に就任しました。

女性医師問題部会の設置 会長 千谷容子 副会長 千原和夫で決定しました。

神戸大学医学部附属病院プラッシュアップセンターに登録、以後活動に参加させていただきました。

11月16日兵庫県医師会館で第7回兵庫県女性医師の会研修会に参加して、講師の竹内聡岩手医科大学産婦人科准教授の講演を聞かせていただき意見交換をしました。女性医師の会の委員ともお会いしました。

11月23日西宮ガーデンズ4階木の葉のステージでイクメン人気第1位の歌手のつるの剛士さんを応援しました。

12月17日神戸大学医学部大講義室でママドクカフェに参加して、秋田大学医学部総合地域医療推進学講座准教授の蓮沼直子先生の講演を聞かせていただきました。先生もお子さんがいます。「自分がハッピーであることが、お子さんもハッピーにすること。育児は本来楽しいはず」とお話を伺い、真逆傾向のイライラばかりだった私にはとても勉強になり、子供達への反省になりました。また、いつも名刺は持っておくべきとの教訓をいただきました。ちなみに私は持っていました。またフットワークが軽いことが大事だそうです。



スモールグループでの意見交換



グループ発表のーコマ

昼休みはポピズスの担当者と打ち合わせでした。医学科発5年次ワークライフバランス講義午後からは神戸大学医学部5年次学生のワークライフバランスセミナーの講義が神戸大学医学部シスメックスホールであり、神緑会も共催しました。学生さんのロールプレイや蓮沼先生の学生向けの講演があり、楽しい時間を過ごしました。最後に意見交換もしました。復職するためには、出産時に周囲に迷惑をかけないようにすることや、復職するために産婦人科や小児科の体験はとても役に立ち、自分の毎日の心がけ次第で就労出来る事や、自信を持てる特技を身につけるといいことや運動をしておくといい等とお話ししました。少しでも若い学生さんのお役に立てればと思います。



熱心に発表を聞く学生



ロールプレイ



議論に参加しました。

## 2014年度

2月1日神緑会臨時総会を神戸大学医学部会館（シスメックスホール）で実施しました。錦織千賀子神戸大学大学院研究科皮膚科学分野教授による「神戸大学の女性医問題の取り組みについて」でした。同級生の栗山啓子先生が座長をされました。私も質問させて頂きました。はとぼぼ保育所についての要望がとても強かったです。やはり自分の子は可愛いものです。男性の児玉先生からも質問が出ました。男女全員で考えるべき問題だと思います。

2月11日は女性理事の誕生をお祝いして神戸大学医学部第1内科同窓会で女性医師6名によるワークライフバランスの講演がありました。座長も昭和59年卒の小川秀美同窓会副会長でした。いろいろな女性医師の生き方があると思い知らされました。

2月15日は三菱神戸病院心療内科が会長を務められる第55回心身医学会近畿地方会に参加しました。女性が就労すると児童虐待になってしまう可能性があります。その対策も検討されています。不登校児の問題対策や女性医師のメンタルヘルス問題も知っておくべきです。三菱神戸病院の院長は昭和51年卒の大先輩の女性医師です。

3月29日にブラッシュアップセンターが荒田町の地域医療活性化センター1階に移転します。

4月5日理事会で女性医師問題について発表します。

5月からは兵庫県女性医師の会に合流します。より女性医師問題の活動を広く理解して強化します。

今後も女性医師問題について積極的に取り組んでいきます。

二度と千夏さんも夏菜ちゃんも出さないように、涙はもうしましましょう。

# 人事往来

## 神戸大学大学院 医学研究科 (採用・昇任等)(25.11.1～26.5.1. 教授・准教授等)

25.11. 1	外科系講座 眼科学分野 教授	中村 誠 (H. 元年卒)
25.11. 1	生理学・細胞生物学講座 神経発生学分野 准教授	吉川 知志 (特別会員)
25.11. 1	外科系講座 災害・救急医学分野 准教授	前田 裕仁 ( " )
25.12. 1	外科系講座 麻酔科学分野 准教授	高雄由美子 ( " )
26. 4. 1	病理学講座病理診断学分野 病理ネットワーク学部 特命教授	全 陽 ( " )
26. 4. 1	地域社会医学・健康科学講座 地域医療ネットワーク学分野 特命教授	石田 達郎 (H. 2 年卒)
26. 4. 1	地域社会医学・健康科学講座医学教育学分野 地域医療教育学部門 特命教授	岡山 雅信 (特別会員)
26. 4. 1	外科系講座 眼科学分野 准教授	本田 茂 (H. 3 年卒)
26. 5. 1	内科学講座糖尿病・内分泌・総合内科学分野糖尿病・内分泌内科学部門 教授	小川 渉 (H. 3 年卒)
26. 5. 1	生化学・分子生物学講座 (薬理学の教育担当) 教授	古屋敷智之 (特別会員)
26. 5. 1	内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授	西 慎一 ( " )

## (退職)

25.12.31	仙波 秀峰 (病理学講座 病理学分野 准教授)
26. 3.31	古瀬 幹夫 (生理学・細胞生物学講座 細胞生理学分野 教授)
26. 3.31	川端 真人 (附属感染症センター 教授) 定年退職
26. 3.31	竹島 泰弘 (内科系講座 小児科学分野 小児急性疾患学部 特命教授)
	兵庫医科大学小児科 教授
26. 3.31	竹縄 忠臣 (質量分析総合センター 特命教授)
26. 3.31	塚原 康友 (外科系講座 眼科学分野 准教授)
26. 3.31	新矢 恭子 (附属感染症センター 准教授)

## 神戸大学医学部 附属病院 (採用・昇任等)

26. 2. 1	神戸大学医学部附属病院長	藤澤 正人 (S.59年卒)
25.12. 1	放射線部 特命教授	高橋 哲 (特別会員)
26. 4. 1	医療の質・安全管理部 特命教授	味木 徹夫 (S.63年卒)
26. 4. 1	乳腺内分泌外科 特命准教授	田中 優子 (特別会員)

## その他 (他大学・病院長等)

26. 4. 1	鹿児島大学医学部長	佐野 輝 (S.63年卒)
23.10. 1	奈良県立医科大学附属病院リウマチセンター 病院教授	藤本 隆 (S.55年卒)
24. 4. 1	金沢大学医薬保健研究域 脳・肝インターフェースメディスン 研究センター生体統御学部 教授	井上 啓 (H. 3 年卒)
26. 1. 1	六甲アイランド甲南病院長	濱辺 豊 (S.53年卒)



## 教員の任期制の導入について

神戸大学大学院医学研究科長・医学部長 片岡 徹（特別会員）  
（浦田前係長代筆）

昭和から平成になり、我が国のすべての高等教育機関は、改革の大きなウエーブの中であって、その主流は教育改革に向いていました。特に医学教育機関においては、国公立大学を問わずその改革の動きは大きく、その駆動力を生み出しているのは医学教育の反省であり、優れた医師を育成しなければならないという自覚でした。このような社会の諸情勢の変化に対応するため教育研究の活性化の方策について検討を重ね、平成14年に教員の任期制の導入が決定されました。

組織が一体となって生命科学の研究成果に根ざした医療の実現に向けて、得られた研究成果を高度先進医療の実践という形で社会に還元することを目指し、教育・研究・診療活動を活性化することによって世界水準の教育研究の実現に向けて努力してきました。また、高い倫理性が特に求められる「人間」を対象とした教育研究であることを再認識し、多様な人材が特に求められる教育研究組織への転換が必要であることから、任期制の制度上は、研究科単位、講座や分野単位でポストを指定することも可能でしたが、医学研究科及び附属病院全体で導入しました。

導入時は、新規の採用者から教授10年、准教授・講師7年、助教5年で更新は2回までの任期制を適用していました。平成19年からは、在職者についても、任期制に同意する者については、任期制を適用となりました。

平成25年の労働契約法の改正により、5年を超える複数回の契約について、無期労働契約の申込の権利が発生し、任期制の根幹である、任期中の業績等を評価し更新の有無を決定するという制度が、本人が希望すれば、業績等を評価を行うことなく更新しなくてはならなくなったため、同10月から、全ての職種において、任期は5年とし、更新はなしとの改正を行う一方で、5年間の業績等を評価し、任期のない教員への転換という制度を創設したところです。

ところが、平成26年から、教員の任期に関する法律及び研究協力開発強化法の改正により無期労働契約の申込の権利の発生が、5年から10年に延長されたことから、今後、本研究科及び附属病院の教員の任期制について、ワーキングを立ちあげて、再検討を行う予定としております。

学内の人事面での疑問は以前から多く寄せられています。以前は、基礎と臨床の講座数が決まっており、基礎の場合教員数が4名、臨床が10名など一律に運営されていました。国立大学が平成16年に独立行政法人となり、多くの規制が緩和されました。同時に、運営費交付金が1～2%（病院）毎年、削減され、競争的資金に振り分けられました。各大学は競って外部資金獲得に取り組み、それらの外部資金を元に採用された教員は、特命教授や助教と命名されて、従来の教員とは区別されました。他にも現状の大学運営に多くの疑問があるとの指摘が多く寄せられたので、今回の大学への依頼となりました。任期制の導入は、全国的にも医学部で多く採用されました。

どんな内容でも結構ですから、疑問な点は編集委員会までお寄せ下さい。順次、担当課に質問し、回答を掲載します。

## 第29回日本医学会総会 2015 関西 一般公開展示について

神戸大学医学研究科放射線医学 杉村 和朗 (昭和52年卒)



杉村 和朗教授

この度、「第29回日本医学会総会 2015 関西」の展示委員長を拝命しました、神戸大学放射線科 杉村 和朗です。医学会総会史上初めて、プログラムの一部、一般市民を対象とした公開展示をこの神戸で開催いたします。開催まで残り1年を切り、更に準備を加速してまいります。神緑会会員の先生方には、この一般公開展示事業の成功にお力添えをいただきたいと思います。

何卒、よろしくお願い致します。

なお、神緑会も展示に協力します。

### 開催概要

名称：未来医 XPO 15

(みらいえきすば にせんじゅうご)

コンセプト：あなたの暮らしと医の博覧会

会期：2015年3月28日(土)～4月5日(日)

会場：神戸国際展示場、会議場ほか、ポートアイランド内研究施設など

対象：一般市民(小中高生、ファミリー、中高年など)、医学・医療関係者

入場料：無料



本大会のメインテーマ：

「医学と医療の革新を目指して

～健康社会を共に生きるきずなの構築～」

を基に「未来医 XPO15」のコンセプトは「あなたの暮らしと医の博覧会」として、健康社会をつくる最新の医学と医療の成果、未来を紹介することを目的としています。以下の3つの特徴を持った会場で一般公開展示を実施します。

1. 今までの医学会総会公開展示の「医学」「医療」分野に、新しく「未来社会のしくみ」と「健康」の分野を加え4つのホール(アイランド)で会場を構成。
2. 健康社会をつくるために医学・医療関係者、一般市民、行政、多様な企業・団体が集い知恵を持ち寄り、語り合う会場。
3. 複数の参加体験プログラムで構成し、将来の日本を担う小中高生達が医学・医療や科学技術の面白さを体験し、未来の健康社会の姿を実感できる会場。

会場は神戸国際展示場をメインに、市民広場にて災害・救急などの屋外展示、またポートアイランド内を巡るサイエンスツアーを実施します。

### 《メイン会場の構成》

テーマを、「スマートアイランド～未来社会のしくみときずな～」、「メディカルアイランド～人にやさしい最新医療～」、「サイエンスアイランド～最先端の医学がひらく未来～」、「ヘルスケアアイランド～健康をつくるライフスタイル～」の4つに大きく区分して、4つのエリア(アイランド)構成で実施します。

【スマートアイランド】のテーマ展示は「未来の健康社会研究所」です。



ここでは「健康社会への探検ツアー」をシアター形式で実施します。またこのアイランドの目玉として、専門家、財界人、一般市民、さまざまな立場の方々が垣根をこえて議論できるように多種多様なイベントで構成するステージ「未来医 XPO オープンフォーラム」を実施します。

【メディカルアイランド】テーマ展示は「アイランド・ホスピタル」です。

最新の手術室、医療技術のデモンストレーションや医療体験ゲームなどを実施して、人にやさしい最新の医療について理解していただきます。



【サイエンスアイランド】は「iPS・先制医療ラボ」です。

iPS細胞を一般の方にわかりやすく説明するコーナーを設置、iPS細胞を実際に顕微鏡で見ることの出来るコーナー、また慢性疾患の発症率をゲーム感覚で体感できるような展示を企画しております。



【ヘルスケアアイランド】は「健康」「生活習慣」のチェックがテーマ展示です。

「ヘルスチェックプラザ」のエリアでは、さまざま

なチェックとその結果に応じた生活、運動、食などについて、希望される来場者にアドバイスを行います。また、国際展示場の会議室を利用して、ヘルスケアをテーマとするワークショップの開催も計画中です。



《その他》【市民広場・屋外展示】

市民広場では実物展示、デモ、体験プログラムを中心とする、災害・救急医療展示を実施します。



《その他》【サイエンスツアー】

ポートアイランドにある先端の科学技術施設、企業ミュージアムや大学を、医療、医学、科学の視点を中心に、「本物」に触れることで、理解を深めていただくツアーを実施します。







神戸マラソンに参加して：

## 還暦親父のマラソンチャレンジ！

ダイエットで始めたジョギングからマラソン完走へ

前田 均（昭和53年卒）

睡眠医療の専門施設を立ち上げてから約10年になります。月に約1000人の無呼吸患者のCPAP治療管理を行っていますが、約70%の方が肥満を伴っており、肥満の改善は必要不可欠です。患者さんに「ダイエットしないとだめですねえ～」と言うと、「先生も太ってきましたね～」と返されることが多くなってきたのが55歳頃でした。自分の体重増加には目をつぶっていましたが、3年前（2011年、58歳）のある夏の日、診療中に息が上がる事態を生じ、ダイエットに挑戦することにしました（この頃の体重は72kg、BMI27.1）。しかし、この時はフルマラソンを走るとは夢にも考えていませんでした。30年以上まともに運動をしたことがないアラカンの者が、ダイエットのためのジョグから初マラソンに挑戦した馬鹿さ加減を報告するようにと、神緑会会長（小生の大学院時の指導教官）からご下命を受けてしまいました。

最初は食事療法で3 - 4kg減量できたのですが、その後は停滞しました。患者さんにダイエットを言っている手前、結果を出さねばと、秋口で気候も良かったので、定石通り運動を加えました。まず、運動する時間と場所の確保です。睡眠検査のため週3回の当直をしており、起床を早め約1時間の空き時間を作りました。ジョグの場所はクリニック近くの「みなとの森公園」（震災公園）に走路が整備されており、完璧です。

さっそく走ってみました。最初は1周（460m）ももたず撃沈です。しかし、ウォーキングやジョグを週3回位繰り返していると、なんとこの年でも少しは走れるようになるではありませんか。ジョグ開始4か月位で、何とか5 - 6kmはゆっくりペースで走れるようになりました。しかしながら、減量はなかなか進みません。ランニングによる消費エネルギーは「走行距離(km)×体重(kg)」とのことであり、当時の体重が68kg位でしたので、5km走っても消費カロリーは350kcal位しかありません。普段の食欲からすると痩せないはずですが。

少しずつ走行距離を伸ばし、10kmはジョグできるようになりましたが、足腰や膝の痛みも頻繁に出

るようになり、ジョグを継続すべきか止めるべきかの瀬戸際に立たされました。丁度その頃（2012年4月）第2回神戸マラソンの申込時期に当たり、無謀にも10kmやハーフの経験もないまま、週に2 - 3回は10km近くを走っているのだからと、フルマラソンに応募し運よく当選しました。周囲からはアラカン（59歳）でのマラソンは危険と脅されながらも、ジョグの目標もでき、キロ6 - 7分の練習を行い、家族や職員の応援もあり第2回神戸マラソン（2012年11月）は無事完走（ネットで4時間24分）できました。

ビギナーズラックなののでしょうか、あまり運動もしていなかった還暦間近の身でありながら完走できたこととジョグをやめるとリバウンドしたこともあり、その後もマラソンに挑戦してみました。確かに還暦でのマラソン挑戦はある意味では無謀なのかもしれません。練習の30km走では、熱中症になりかけたこともあり、冷たい水を頭からじゃぶじゃぶかぶり、何とか回復しました。これが本当の「年寄りの冷や水」。その後は、神戸大学医学部総合内科臨床教授の賀来正俊先生の「みんなのマラソン医学」（発行 株式会社ヒッツ）で、「急性マラソン症候群」（マラソン競争で25km以上42.195kmを走行した時に発症することのある異常や疾患）を勉強させて頂き、無茶なトレーニングをしないようにしています。

2013年（60歳）には第3回大阪マラソン（10/27）に当選、さらに第3回神戸マラソン（11/17）は医師会のボランティア枠での当選があり、3週間の間隔で2つのフルマラソンに出場し、幸い両方とも完走（大阪は4時間19分、神戸は4時間31分）できました。どのマラソンでも同じですが、ハーフまではあまり異常を感じることはない（異常を感じるほどのスピードで走れません）のですが、賀来先生のおっしゃる通り25kmを過ぎた頃から、お腹も空くので、20km位からは途中のエイドにあるスイーツやバナナ、持参するエネルギー補充食品などを食べながらのジョグになります。実際25km走ると、体重が60kgでは約1500kcalの消費をしているわけで、

42.195km を走り終わる頃には約2500kcal のエネルギー消費になります。さらに、ハーフを過ぎた頃からは脚が痛くなったり、前ばかり見るので肩が凝ったり、「もうこの辺でやめたら」という脳のジョグストップ指令が出てきます。こうなるとマゾの世界ではありますが、沿道からの多くの声援（たまには、「脚が痛いのは気のせい！」などとも言われますが、多くは還暦親父からみると孫のようなちびっ子たちの「頑張って！」）やハイタッチを受けると脚が自然に前に進みます。さらに30km を過ぎる頃には足がつったり、ギブアップしたい気持ちがより強く出てきます。ここからは楽しそうな着ぐるみを着たランナーをペースメーカーに選び、相手のご迷惑にならないようにそっと後ろをついていくという方法でゴールを目指します。今回の第3回神戸マラソンでは、30km 過ぎで足の裏がつり、神戸大橋の上り坂には苦勞したものの、ミニーちゃんの着ぐるみを着た御嬢さんの力を借り、無事にフィニッシュラインを通過できました。

2013年の第3回神戸マラソンは市医師会ボランティア枠でしたが、私の周囲では医療的援助を要す

るトラブルはありませんでした。神戸マラソンでは、医療支援で、県市医師会に所属されている多くの神緑会の先生方も参加されておられ、安心して走れる環境が整っています。私のような年でも健康（ダイエット）目的でマラソンを走るには、一定のスピードを設定し計画的に走れば何とかできるようです。神戸、大阪、東京マラソンは7時間制限であり、キロ9分位で走れば十分にゴールできます。昨今のマラソンブームでは抽選に当たるのが大変ですが、神緑会の若手先生方はもちろん、還暦を迎えて運動不足の先生方も、無理は危険ですが、健康維持の範囲内でチャレンジされてはいかがでしょう？



## 健康と福祉に貢献する

医療機器・医用電子機器・衛生材料  
アンギオ用カテーテル・内視鏡製品  
整形外科用器械・病院設備全般

**YAYOI** 医科器械  
Corporation



株式会社 **やよい** 本社 / 姫路市古二階町3番地 〒670 0936 ☎079(224)5151(代) FAX 079(224)2024

姫路営業所 / 〒671 0252 ☎079(253)7800  
神戸営業所 / 〒652 0836 ☎078(652)5151  
阪神営業所 / 〒663 8132 ☎0798(46)1216  
大阪営業所 / 〒577 0063 ☎06(6782)7171

大阪南営業所 / 〒592 8342 ☎072(263)5756  
津営業所 / 〒514 0015 ☎059(223)1500  
アンギオ事業部 / 〒670 0936 ☎079(224)5154  
人工臓器事業部 / 〒577 0063 ☎06(6782)7308

特販営業部 / 〒671 0252 ☎079(251)2023  
物流部(神戸) / 〒654 0046 ☎078(733)8808  
物流部(SPD) / 〒671 0223 ☎079(253)6671  
物流部(センター) / 〒671 0223 ☎079(253)6644  
ホームページ <http://www.kk-yayoi.co.jp>

## 学生運動部紹介

### 準硬式野球部

3年 平 位 一 廣

私たち準硬式野球部は現在部員16名、マネージャー6名で活動しております。練習は週に三回、主に神戸大学病院西側にある大倉山公園でおこなっており、現在、関西医歯薬リーグの2部に所属しております。私たちは練習場所の都合上バッティング練習ができず、主に守備練習や走塁練習をしています。さらに、経験者も数えるほどしかおらず、とても環境的にも、また選手にも恵まれているとは言えない中、1部昇格、西医体勝利を目指して取り組んでいます。人数も多くないため、いつもけがを恐れながら試合をしているという具合です。戦績としては語るほどではなく、ここ数年はいつも2部です。そのため、日々、効率の良い練習内容を考え、また、バッティングのできる練習場を探すなどして、何とかチームの能力を上げようという工夫をしています。初心者ばかりの野球部ですが、工夫して野球をすることにより、能力の向上を実感しつつ、楽しく野球をしております。目標としては1つでも多く勝ち、1部昇格を狙っていきたいと思います。



### 空手道部

空手道部主将 2年 北 爪 麻 衣

私たち空手道部は平成25年度に創部50周年を迎えました。多くのOBの先生方が私たちを思い、支えてくださっているからこそ今の活動を続けることができます。まずはこの場をお借りして、先生方に厚くお礼申し上げます。

現在私たちは八人で週二回活動を行っています。空手には、仮想の相手との攻防を表現する形競技

と、実際の相手と対戦する組手競技がありますが、師範の指導の下両方をバランスよく練習することで空手の本来の動きを理解し、習得することを心がけて練習に取り組んでいます。

少し前までは部員数が足りず、部としての存続が危ぶまれていましたが、近年徐々に入部する人数が増えてきました。部員数の増加に伴い、部全体に活気が出て平成25年度の流派の大会で一位、三位をとることができました。今までは部員数が足りず出場できなかった女子の団体戦にも出ることができるようになったので、今後は関西の八大学が集まって行う関西医科学生空手道大会や西医体でもよい成績が残せるように努力を怠らず、精進していきます。特にこの平成26年度春季の関西医科学生空手道大会では神戸大学が主管を務めます。悔いのないよう、ベストを尽くします。



### ウィンドサーフィン部

主将 5年 浅 田 裕 也

私たちウィンドサーフィン部は、毎週土曜日に須磨海岸で練習しています。「海」と聞くと「遠い・非日常の別世界」という印象をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、JR須磨駅から徒歩5分という好立地で、神戸駅からだと20分もあれば海岸に着いてしまうほど意外と近くに海はあります。部員は1回生から6回生まで男子15名、女子11名となっており、最近では男子と女子がほぼ半々となっています。練習は11時から夕方4時までで、途中1時間の昼休みが入ります。昼休みには、マネージャーさんが作ってくれる美味しいご飯が疲れた体に染み渡ります。

毎週の練習は真面目に取り組み、練習以外の夏休みなどの長期休暇には石垣島や小笠原諸島、バリ島への旅行、冬休みにはスノボなど、沢山のすばらしい思い出を作っています。

大会成績でも結果を出しており、毎年4月末に九州で行われる九州山口医科学生体育大会(九山)では、2011年 団体優勝



2012年 団体優勝

2013年 3位入賞

という、素晴らしい成績を残すことが出来た他、メンズ優勝・レディース優勝など、個人でも結果を残しています。

ここまで来られたのも、選手やマネージャーの頑張りや、先生方のご協力があってこそだと思っています。ウィンドサーフィン部に関わっていただいた全ての方に感謝しながら部員一同、頑張っているという所存です。

これからもウィンドサーフィン部をよろしくお願いします。



## 女子バスケットボール部

医学部女子バスケットボール部 二木ひとみ

こんにちは。私たち医学部女子バスケットボール部は、水曜日と土曜日の週2回、厚生棟の3階の体育館で活動しています。西医体をはじめ、年6回程度ある大会に向けて日々練習に励んでいます。医学科と保健学科の合同の部活なので、他学科の学生と交流を深める貴重な機会にもなっています。

昨年度の夏には3年ぶりに西医体に出場しました。医学科は5人しかいなかったため、全試合フル出場でしたが、それぞれが自分の持ち味を發揮し、ベスト8まで勝ち進むことができました。また、一昨年から西医体の直前に、医療系学生なら誰でも出場できる大会が開催されています。女子は、医学科だけでは部員不足の大学が多いため、新しく作られた大会です。部活の1年の節目である夏に、部員全員で出場できる大会ができたことを嬉しく思うと同時に、今年も夏に向けてより一層集中して練習に取り組んでいきたいと思っています。

バスケットボールは体力的に決して楽なスポーツではありません。しかし、シュートが入ったときや良いプレーができたとき、そして何より、試合に勝てたときの喜びや楽しさには何事にも代えがたいものがあります。団体種目なので、仲間と共に考え、楽しさを共有できるというおもしろさもあります。これからも仲間を大切に、充実した活動ができ

るよう頑張っていきたいと思っておりますので、応援よろしくお願いたします。



## 卓球部

3年 堀谷 晋

私たち卓球部は、月、木、土と週に3回、生協棟3階の体育館で活動しています。練習は自由参加ですが、意識の高い部員も多くOBの先生を含め毎回多く的人数で練習しております。練習方法は20分を1コマとし、コマの間はあらかじめ決めた人と練習をします。それが終わるとまた20分間、別の人と練習をするという形をとっております。1コマの中でどのような練習をするかは各自の自主性に任せており、苦手とする部分の克服などに充てております。

大会、試合についてですが、私たちが参加する主な大会は、春季近畿医科学生卓球大会、西医体卓球大会、秋季近畿医科学生卓球大会、西日本医歯薬学生卓球大会の4つです。男子は昨年秋に行われた近畿大会で惜しくも京都大学に敗れましたが、準優勝を果たしました。女子も今年の3月に行われた西日本医歯薬大会において、多くの参加校がいるなか予選を見事突破し、ベスト16の成績を収めることができました。男子、女子ともに春の近畿大会、夏の西医体では好成績が期待できると思います。

これからは新入生が新しく入ってくる時期になります。昨年度のような好成績を持続して残していくためにも、後輩の指導にも注力していきたいと考えております。

これからも卓球部の応援を宜しくお願いたします。

## 神戸大学・中国地質大学合同学術登山隊が 2015年にチベットの未踏峰へ

遠征実行委員長（農学研究科教授） 山形 裕 士

神戸大学山岳部・山岳会は2015年に創部百周年を迎えます。その歴史を振り返ると一貫して「未知への挑戦」を旗印としてきました。1958年、南米パタゴニア・アレナレス峰（3437m）初登頂以来、1976年シェルピカンリ峰（7380m）、1986年クーラカンリ峰（7554m）の二つの七千m峰を含む6つの未踏峰の初登頂を行うなど、探検的登山を途絶えることなく続けて今日に至っています。

21世紀に時代が移り、もはや世界には登るべき未踏峰などなくなったとして、より個人的で冒険的登山スタイルが注目を集めるようになってきました。しかし、ヒマラヤの東には無数の六千m峰が知られざる存在として人類にその頂を踏ませず残されています。従来、この領域は地理的情報に欠ける暗黒の地とされてきました。実際には北西から南東に全長約280kmのカンリガルポ山群が存在します。歴史的にはインドと中国の国境未確定地として19世紀以降20世紀末まで禁断の地として外国人の入域が拒絶され、きわめて少ない探検記録が散在するに過ぎません。

神戸大学ではクーラカンリ峰初登頂後にラサから成都まで学術調査隊が川蔵公路を旅した途上に未知なるカンリガルポ山群の存在を知り、これまで2度の遠征を実施しました。

2003年第一次カンリガルポ山群遠征

ルオニイ峰（KG - 1 6882m、山群の最高峰）  
5900mにて敗退

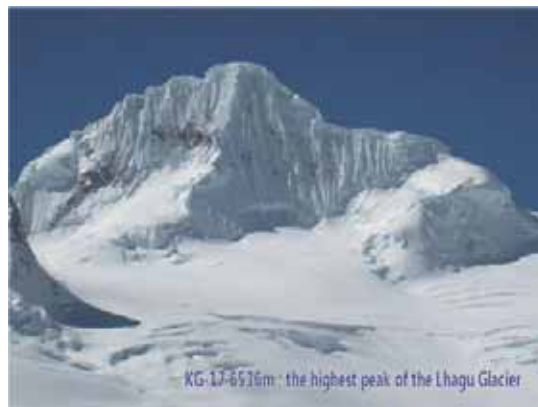
2009年第二次カンリガルポ山群遠征

ロブチン峰（KG - 2 6805m）  
初登頂成功（カンリガルポにおいて世界初）



そして、2015年の山岳部創部百周年事業として、第三次カンリガルポ山群遠征を計画しています。目標は山群最大の氷河であるラグ氷河を遡り、氷河源流の最高峰であるKG - 17（6536m）の初登頂です。また、この地は地質学など自然科学の研究対象としても未知なまま残されています。これまでの登山隊と同様に学術調査も企画しています。皆様の今後のご支援をお願い申し上げます。

（時期、方法は追って連絡します）



### 編集後記

新年度最初の発行は、「卒業と入学の特集号」と位置づけています。謝恩会以外には、神戸大学が行う学位記授与式（ポアアイワールド体育館で挙行）では、学部学生と修士修了が対象です。入学についても同様ですが、神緑会関連の内容に限定しています。

総会関連の内容が「定款の変更」を議題とする関係もあり、参加呼びかけに熱が入っています。講演内容が「明治初期の神戸病院」と最大の事件であった「阪神・淡路大震災」となりました。古い資料報告など、皆さんの関心は如何でしょうか？学内関連では、地域医療活性化センター竣工式典報告です。引き続き旧病棟跡地の低侵襲棟（第5巻第2号で紹介）の竣工式典が6月9日に予定されています。

神緑会の発展に多大な貢献をされた社団法人・同窓会 神緑会前理事長 菱田 繁先生の追悼文を伊東、西村同級生のご協力により急遽、掲載できました。謹んで哀悼の意を表明します。

学生が準会員として本格的に神緑会内に位置づけられることと併せて、白衣授与式やクラブ活動紹介を多く報告しました。それでも、3号合計で文化部ではESSのみで他の8文化部、運動部で11報告で10運動部が報告漏れです。順次追加します、学生の編集委員募集も行います。全体の内容に付いてのご意見や感想をお寄せ下さい。

### 編集委員：

梶田明義	昭和34年卒
久野克也	昭和48年卒
中野康治	昭和52年卒
三浦靖史	平成元年卒
尾藤利憲	平成3年卒
吉田 優	平成4年卒
小林和幸	平成9年卒
は編集委員長	

### 編集委員募集中

[sinryoku@med.kobe-u.ac.jp](mailto:sinryoku@med.kobe-u.ac.jp)